

平成 28 年度 水産物消費嗜好動向調査

小学校の海洋・水産教育と体験学習に関する調査
報告書

平成 28 年 9 月

一般社団法人 大日本水産会

小学校の海洋・水産教育と体験学習に関する調査 報告書

目次

1. はじめに.....	1
2. 調査概要.....	2
3. まとめ.....	5
4. 調査結果詳細.....	10
4.1 海洋・水産教育への取り組みについて.....	10
4.1.1 海に関する教育や活動の実施状況（問2）.....	10
4.1.2 子どもたちの反応・教育上の効果（問2-1）.....	13
4.2 海と魚に関わる体験学習への取り組みについて.....	16
4.2.1 訪問・見学型授業の実施状況（問6）.....	16
4.2.2 訪問・見学型授業で訪れたことのある施設（問6-1）.....	18
4.2.3 訪問・見学型授業実施の上での課題（問7）.....	22
4.2.4 体験型授業の実施状況（問8）.....	26
4.2.5 体験型授業実施の上での課題（問10）.....	28
4.2.6 魚に関する食育の実施状況と内容（問9）.....	32
4.3 「おさかな学習会」について.....	35
4.3.1 「おさかな学習会」の認知（問3）.....	35
4.3.2 「おさかな学習会」で体験させたいプログラム（問4）.....	37
4.3.3 「おさかな学習会」の実施意向（問5）.....	38
4.3.4 「おさかな学習会」を実施したい時期・時間帯（問5-1）.....	42
4.3.5 「おさかな学習会」を実施したい学年（問5-2）.....	45
4.3.6 「おさかな学習会」実施の上での課題（問5-3）.....	47
4.3.7 体験学習としての「おさかな学習会」の位置づけに関する分析.....	49
参考資料.....	56

1. はじめに

学校教育における日本の水産業や魚食文化の指導の重要性については広く認識されているところですが、海洋基本法においても、学校教育や社会教育などで海洋に関する理解と関心を深めることができるよう、海に関する教育「海洋・水産教育」推進が明記されています。とりわけ小学校での「海洋・水産教育」は、世界で 6 番目に大きな排他的経済水域を持つ「海洋国日本」を早い段階から子供達に理解させ、海の恵みと将来に向けた持続的発展に関心を持たせる意味でも重要な課題と言えます。

また食育基本法では食に関する体験活動と食育推進活動の実践が家庭・学校・地域等で求められており、水産業界としてもこれらの課題を魚食普及活動を通して推進する立場にあります。「おさかな学習会」のような小学校への出前授業・体験学習は、児童へ強い印象を与える体験であり、加えて保護者にも影響を与えることが実施後のアンケート調査でも明らかになっています。

今回の「小学校の海洋・水産教育と体験学習に関する調査」は、出前授業・体験学習を実施する立場である学校側の需要・要望を聞き、水産・海洋に関する授業をより多くの学校で実施するための条件整備として何が必要かを探っています。回答の中には「おさかな学習会は子供達にも保護者にも大好評でした」という嬉しい声もありましたが「セリの様子とかを見たいが適当な施設が無い」、「体験学習をやりたいが学習時間も足りない上に知識のある教員がいない」、「山間部の学校で海や魚の体験は貴重だが往復の交通費など経費がかかり難しい」など教育現場の生の声も含まれています。

本調査報告書をご一読いただき、今後の魚食普及につながる「おさかな学習会」等の出前授業・体験学習が各地でより多く開催されるヒントになれば幸いです。

2016年9月

一般社団法人 大日本水産会
会長 白須 敏朗

2. 調査概要

(1) 調査対象

魚とのふれ合いの機会が少ないと考えられる、東名阪の大都市圏及び全国の政令指定都市の小学校管理職（校長、副校長、教頭）を対象とし、具体的には、以下の地域に所在する5,014校に対し調査票を配布した。

表 1 調査対象先（都市別、都道府県別）

都道府県	都市名	配布数(校)	都道府県	配布数(校)
北海道	札幌市	205	北海道	205
宮城県	仙台市	127	宮城県	127
東京都	東京都(23区・都下)	1,350	東京都	1,350
神奈川県	横浜市	354	神奈川県	653
	川崎市	117	埼玉県	206
	相模原市	74	千葉県	214
	厚木市	24	新潟県	112
	横須賀市	47	静岡県	192
	藤沢市	37	愛知県	382
埼玉県	さいたま市	107	京都府	176
	越谷市	33	大阪府	480
	春日部市	24	兵庫県	298
	所沢市	32	岡山県	95
	三郷市	10	広島県	146
千葉県	千葉市	115	福岡県	282
	市原市	44	熊本県	96
	船橋市	55	合計	5,014
新潟県	新潟市	112		
静岡県	静岡市	90		
	浜松市	102		
愛知県	名古屋市	267		
	春日井市	37		
	小牧市	16		
	一宮市	42		
	瀬戸市	20		
京都府	京都市	176		
大阪府	大阪市	305		
	堺市	95		
	吹田市	37		
	高槻市	43		
	神戸市	169		
兵庫県	宝塚市	27		
	伊丹市	17		
	尼崎市	43		
	西宮市	42		
	岡山市	95		
広島県	広島市	146		
福岡県	福岡市	147		
	北九州市	135		
熊本県	熊本市	96		
	合計	5,014		

(2) 調査方法

表 1 で示した地域の全ての小学校に対し、郵送にて挨拶状及び調査票を配布し回答を依頼。回答票の回収は、返信用封筒による郵送または FAX にて実施。

なお、回答した学校の属性の把握については、学校の所在する都道府県を問う設問を設定し、小学校名及び回答者名については無記名方式とした。なお、調査にあたっては日本教育新聞社の協力を得た。

(3) 調査項目・調査内容

本調査では、「海洋・水産教育への取り組みについて」、「『おさかな学習会』について」、「海と魚に関わる体験学習への取り組みについて」の3つのテーマを設定し、それぞれ表 2 に示す内容を質問した。なお、調査票の詳細については巻末参考資料参照。

表 2 調査項目一覧

テーマ(質問数)	設問番号	調査内容	設問種類
属性(1問)	問1	回答した学校の所在地	単一選択
海洋・水産教育への取り組みについて(2問)	問2	海に関する教育や活動の実施状況	単一選択
	問2-1	子どもたちの反応・教育上の効果	複数選択
おさかな学習会」について(6問)	問3	「おさかな学習会」の認知	単一選択
	問4	「おさかな学習会」で体験させたいプログラム	複数選択
	問5	「おさかな学習会」の実施意向	単一選択
	問5-1	「おさかな学習会」を実施したい時期・時間帯	複数選択
	問5-2	「おさかな学習会」を実施したい学年	単一選択
	問5-3	「おさかな学習会」実施の上での課題	複数選択
海と魚に関わる体験学習への取り組みについて(6問)	問6	海辺・水辺、または施設等を訪れる(訪問・見学型)授業の実施状況	単一選択
	問6-1	訪問・見学型授業で訪れたことのある施設	複数選択
	問7	訪問・見学型授業実施の上での課題	複数選択
	問8	水辺の生物に触れる・食す(体験型)授業の実施状況	単一選択
	問9	魚に関する食育の実施状況と内容	複数選択
	問10	体験型授業実施の上での課題	複数選択
ご意見・ご要望等	問11	(自由記述)	自由記述

(4) 調査期間

依頼状・調査票発信日：平成 28 年 7 月 5 日 (火)

回答締め切り：平成 28 年 7 月 20 日 (水) 午後 5 時

(平成 28 年 7 月 22 日 (金) 到着分まで集計)

(5) 回収状況

調査票発送数 5,014 件のうち、締め切りまでの回収数は 1,101 件（回収率：22.0%）であった。また、県別の回収率を図 1 に示す。

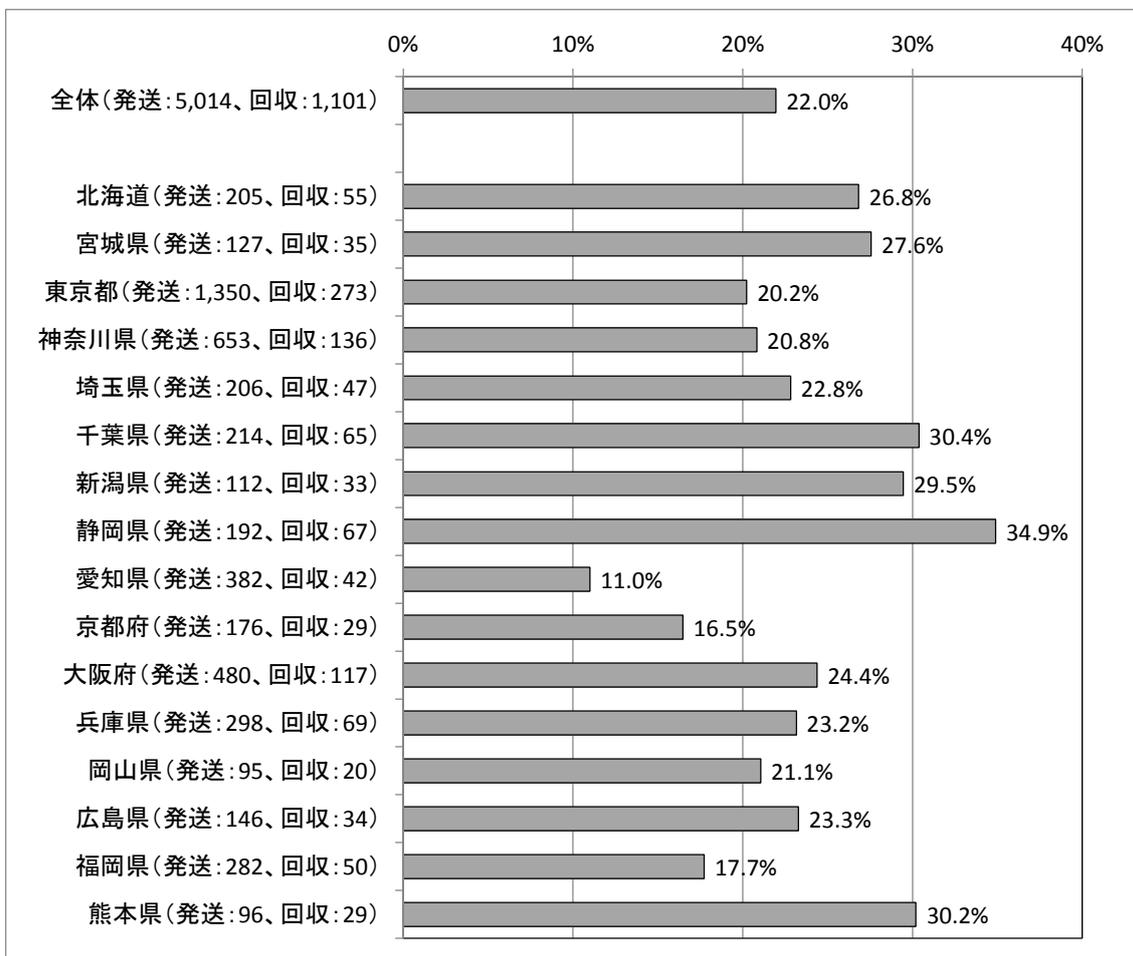


図 1 回収率（県別）

3. まとめ

- 1) 海洋・水産教育はほぼ全ての学校で行われ、約 8 割が教科書の範囲で学習している。
- 2) 子供達への教育上の効果は「漁業・水産業への理解が深まった」が約 8 割である。
- 3) 訪問・見学型授業は約 6 割の学校が実施したことがあり、訪問・見学先は「水族館」が約 6 割で最多。課題は「海辺・水辺、施設が近くに無い」「経費の負担が大きい」「時間を生み出せない」が多い。
- 4) 体験型授業（触れる・食す型）は約 35%が実施したことがあるが、「海辺・水辺、施設が近くに無い」「経費の負担が大きい」「安全性に不安がある」「教員自身に知識が無い」がネックになっている。
- 5) 「おさかな学習会」の認知度は低く約 8 割が知らない。
- 6) 一方で「おさかな学習会」の実施意向を聞くと、「実施したいと思う」「どちらかと言えば実施してみたいが、もう少し具体的に内容を知りたい」が合わせて約 6 割あった。
- 7) 「おさかな学習会」を実施したことがある学校では「実施したい」の選択は 7 割を超え、極めて高いリピート意向がある。

<結論>

今回の調査で明らかになった実態や課題等から考えると、体験型出前授業である「おさかな学習会」の潜在的需要は全国的に相当大きいと考えられる。特に体験型授業は実施状況が約 35%程度にとどまっているが、「おさかな学習会」を実施することで指摘された様々な問題点の多くが解消される可能性がある。「おさかな学習会を実施したことがある」学校の高いリピート率からみても、体験型授業の教育効果の高さを感じていると考えられ、潜在的ニーズへの今後の対応が求められる。

(1) 「海に関する教育や活動の実施状況」について

- 調査への回答のあった1,101校のうち、97.1%の学校が、海に関する教育や活動を行っているとの回答であり、海洋・水産教育は、ほぼ全ての学校で行われている。
- 内容については、「教科書に載っている範囲で海について学習している」との回答が78.6%を占め、大多数の学校では、教科書の範疇の学習を中心としている。

⇒詳細は、4.1.1へ

(2) 「子どもたちの反応・教育上の効果」について

- 海に関して何らかの教育を行っている学校のうち、98.0% (1,048校)の学校が「効果があった」との回答であり、このうち79.5%が「漁業・水産業への理解が深まった」を選択している。
- 教育活動の実施状況との関係を見ると、「教科書に載っている範囲で」を選択した学校において、「漁業・水産業への理解が深まった」との回答が85.3%、「地域に関する学習として」を選択した学校において、「漁業・水産業への理解が深まった」との回答が75.0%であり、多くの学校が、学習指導要領を基本とした教科書における学習や、地域産業としての漁業・水産業に関する学習によって、漁業・水産業についての理解を深めていることが分かる。

⇒詳細は、4.1.2へ

(3) 「海と魚に関わる体験学習への取り組み：訪問・見学型授業の実施状況及び実施の上での課題」について

- <実施状況>
- 海に関する教育や活動を行ったことがある学校が97.1%であることに比べ、海辺・水辺または施設等を訪れる訪問・見学型授業を実施したことがある旨の回答をした学校は62.4%にとどまった。また、「実施している」との回答は、50.0%であった。
 - 訪れたことのある施設については、「水族館」が57.3%で最も多い。一方、30.9%を占めた「その他」の回答の中には、宿泊研修旅行における「カヌー体験」、「魚つり」や海辺・水辺での移動教室における「磯遊び」、「干物づくり」といった回答があり、訪問・見学の形式にとらわれない多種多様な活動を組み合わせた体験学習を行っている学校があることが分かる。
- <実施上の課題>
- 訪問・見学型授業の実施における課題としては、「海辺・水辺、施設が近くにない」が49.4%、「経費負担が大きい」42.0%、「時間を生み出せない」40.1%を占め、出前授業の潜在的なニーズは高い。
 - 訪問・見学型授業を実施したことがある旨の回答をした学校よりも、「実施したことはない」と回答した学校では「安全性に不安がある」との回答が多かった。訪問・見学型授業の実施については、安全性の理解を深めることが重要といえる。
 - 訪問・見学型授業を「過去に実施したことがある」との回答者のみが、「経費負担が大きい」を最も多く選択しており、継続的な実施上で経費負担は大きな課題であ

るといえる。

⇒詳細は、4.2.1～4.2.3へ

- (4) 「海と魚に関わる体験学習への取り組み：体験型授業の実施状況および実施の上での課題」について

<実施状況>

- 水辺の生物に触れる・食すといった体験型授業の内容については、実施したことがある旨の回答をした学校は34.8%であり、訪問・見学型授業と比べ低い。また、「実施している」との回答は25.1%であった。

<実施上の課題>

- 体験型授業の実施における課題としては、「海辺・水辺、施設が近くにない」が52.5%、「経費の負担が大きい」38.5%、「安全性に不安がある」38.0%、「教員自身に知識がない」36.9%との回答となっている。訪問・見学型授業と比べ「安全性に不安がある」との回答が多く、また、「教員に知識がない」も同程度の割合の回答があることから、体験型授業の実施における特有の課題はこの2点であると考えられる。ただし、いずれも専門家による出前授業であれば解決できる問題であり、出前授業の潜在ニーズは高いといえる。

⇒詳細は、4.2.4・4.2.5へ

- (5) 「海と魚に関わる体験学習への取り組み：魚に関する食育の実施状況と内容」について

- 全体のうち、魚に関する食育を実施したことがあると回答した学校は63.2%（696校）を占める。
- 取り組んだことがある内容については、「魚の産地の学習」が31.1%、「和食、郷土料理についての学習」が21.1%、「魚特有の栄養についての学習」が20.8%との回答となっており、産業・地域の座学形式の学習が中心となっていると考えられる。しかしながら、その他の回答においては、「給食を通じた教育」や「調理をして食す」といった学習も多くみられ、体験型学習も一部実施されている。

⇒詳細は、4.2.6へ

- (6) 「おさかな学習会」について

<認知度とプログラムへの関心度>

- 「おさかな学習会」を認知している旨の回答をした学校は、17.3%であった。また、「実施したことがある」と回答した学校は全体の4.1%であった。
- 「おさかな学習会」で体験させたいプログラムについては、「おさかなゼミ」が最も多く61.0%であり、「模擬漁体験」・「タッチプール」でも5割以上が体験させたいとの回答であった。また、最も回答の少ない「鮮魚タッチ」でも3割以上が体験させたいと回答しており、プログラム全般について関心は高い。また、「生き物に触れるプログラムや専門知識の学習ができるプログラム、あるいは大勢で一斉に体験できるプログラムのニーズが高いと考えられる。

<実施意向>

- 「おさかな学習会」の実施については、実施意向がある旨の回答が60.4%であり、認知度と比べ高いことより、多くの学校が「おさかな学習会」に魅力を感じているといえる。
- 「実施したことがある」と回答した学校における「実施したい」の選択率は、73.3%であり、一度実施すれば、極めて高いリピート意向を得られる。また、未実施層の間で「実施したいとは思わない」の選択率に差がない一方で、認知度が高い層ほど「実施したい」の選択率が増加することより、「おさかな学習会」の認知度向上が、実施意向の向上につながると考えられる。
- 「おさかな学習会」の実施意向別に体験させたいプログラムをみると、「実施したい」と回答した学校と「どちらかと言えば実施してみたいが、もう少し具体的に内容を知りたい」と回答した学校では、「鮮魚タッチ」・「料理教室」の選択率に差が大きい。実施の決定や実施意向の向上においては、衛生面等に関する不安の解消が重要と考えられる。また、「実施意向がない」・「わからない」と回答した学校においても、プログラムへの関心は比較的高く、海洋・水産教育や「おさかな学習会」自体の意義等については、一定の理解があるものと推測される。
- 実施したい時間帯は、「平日の授業時間帯」との回答が73.2%、「土曜日の授業時間帯」との回答が30.1%を占め、授業の一環として、より多くの児童に体験させたいという意向があるものと推測される。
- 実施したい学年は、「全学年で実施したい」との回答が22.3%、「特定の学年で実施したい」との回答が77.1%を占めた。児童の発達段階に応じた学習、全校イベントとする際のカリキュラムや時間調整に対する抵抗感があるものと推測される。認知度別に実施したい学年をみると、「おさかな学習会」を実施したことがある学校では、「全学年で実施したい」の選択率が、全体での選択率を上回っている。実施した結果、学年を問わず教育効果を感じているものと推測される。また、「特定の学年で実施したい」との回答は、学年が上がるほど実施意向が上がり、5年生が突出して高い。5年生の社会科にて水産業の学習があるため、「おさかな学習会」を併せて実施することにより理解を深めたい意向があると推察される。

<実施上の課題>

- 「授業や既存行事で埋まっており、実施する時間が取れない」・「準備を行うための教員の時間が取れない」といった時間的制約が大半。専門家による出前授業であることにより時間的メリットを有することや、海洋・水産教育の重要性等、「おさかな学習会」が時間価値を超える価値を有する点を示すことで、実施意向の向上につながると推察される。

⇒詳細は、4.3.1～4.3.6へ

(7) 「体験学習としての「おさかな学習会」の位置付けに関する分析」について

<自由記述意見からみた課題>

- 海洋・水産教育自体は否定しないが、現在の「おさかな学習会」の実施形態・内容を理由に「おさかな学習会」の実施に否定的な意見がみられる。「おさかな学習会」が、今後、学校以外の場での活動へ広がることへの期待があると考えられるとともに、そのような活動を行うことで幅広い理解を得られる可能性がある。
- 海洋・水産教育の位置付けが不明瞭で、どのように取り組めばよいか分からないという意見がみられる。一方で、実施意向が強くなればなるほど、海洋・水産教育への理解やその重要性に対する認識が高い傾向にある。「おさかな学習会」の実施による効果や好影響について説明していくことで、学校側が利用しやすくなると考えられる。
- 海洋・水産教育に関心はあっても、海が近くにない等地理的条件に恵まれず、実施したくてもできないという意見と、実施の必要性を感じないという意見がみられる。普段、海との関わりが少なく、関心・理解が低い地域ほど、実施効果があると考えられる。海のない地域でもなじみやすいテーマを切り口に活動を行うことがポイントと考えられる。

<体験学習実施上の課題からみた「おさかな学習会」への期待>

- 「おさかな学習会」の実施意向がある学校では、「海辺・水辺、施設が近くにない」ことを海と魚に関わる体験学習の実施上の課題として選択している比率が高い。出前授業により、海辺・水辺等に赴かなくても海や魚を感じる体験ができる点が「おさかな学習会」活用のうえでの重要なポイントとなる可能性がある。
- 「おさかな学習会」の実施意向がある学校では、「教員自身に知識がない」ことを課題として選択している比率が高い。専門家による授業である点が「おさかな学習会」活用のうえでのポイントとなっていると考えられる。また、教員自身も知識を得られるプログラムの提供が、「おさかな学習会」の利用促進や海洋・水産教育の推進につながる可能性がある。
- 「おさかな学習会」の実施意向がない学校では、時間的制約を重視する傾向があることから、海洋・水産教育の重要性や「おさかな学習会」実施により得られる効果等、学校において教育・活動を行う意義を明確にし、示していくことが、海洋・水産教育の推進、体験学習の促進、「おさかな学習会」自体の利用促進につながる可能性がある。
- 「おさかな学習会」の実施について「わからない」とする学校は、体験学習における安全性を重視している。専門家による学校内での出前授業である点など、安全性の高さ等を説明していくことが重要と考えられる。

⇒詳細は、4.3.7へ

4. 調査結果詳細

本章では、各設問についての回答状況を示す。

4.1 海洋・水産教育への取り組みについて

4.1.1 海に関する教育や活動の実施状況（問2）

- 「教科書に載っている範囲で海について学習している」との回答が 78.6%。他方、「海について取り上げることはない」との回答は 1.0%。（図 2）
 - **大多数の学校では、教科書の範疇の学習をしていることが分かる。**
- 県別にみると、「地域に関する学習として海についての学習を行っている」との回答については静岡県・千葉県、「総合的な学習の時間などで海について学習している」については熊本県・福岡県・新潟県、「課外授業として海について学習する機会を設けている」については京都府・静岡県で特に多い。（図 3）
- 他方、「教科書に載っている範囲で海について学習している」との回答は、愛知県・北海道（札幌市）・埼玉県・宮城県（仙台市）・新潟県（新潟市）で 90%超。（図 3）

問2	海に関する教育や活動について、どのように実施していますか？ あてはまるものを1つ選んでください。 ①教科書に載っている範囲で海について学習している （社会科での国土に関する学習・漁業に関する学習、理科での気候に関する学習など） ②地域に関する学習（産業・風土・文化など）として海についての学習を行っている ③総合的な学習の時間などで海について学習している ④課外授業として海について学習する機会を設けている ⑤その他（具体的に： ⑥海について取り上げることはない
----	---

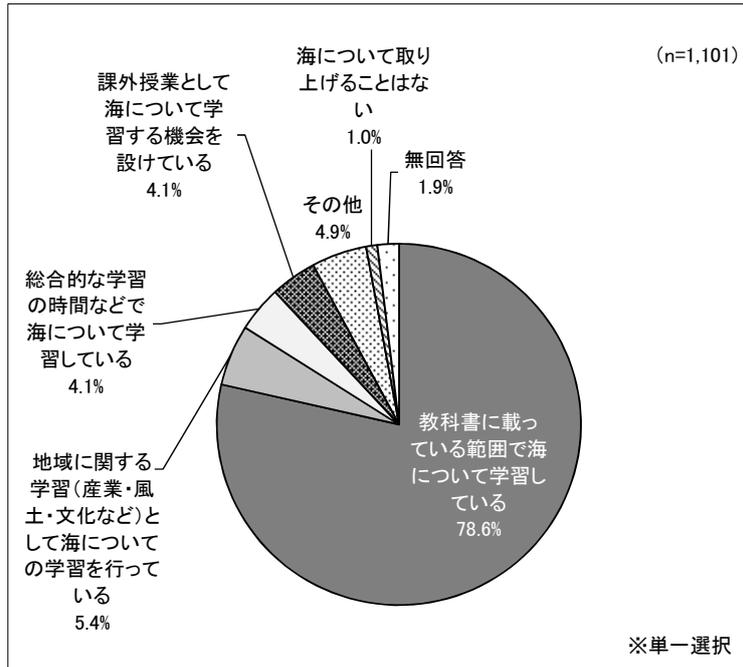


図 2 【問2】海に関する教育や活動の実施状況（全体）

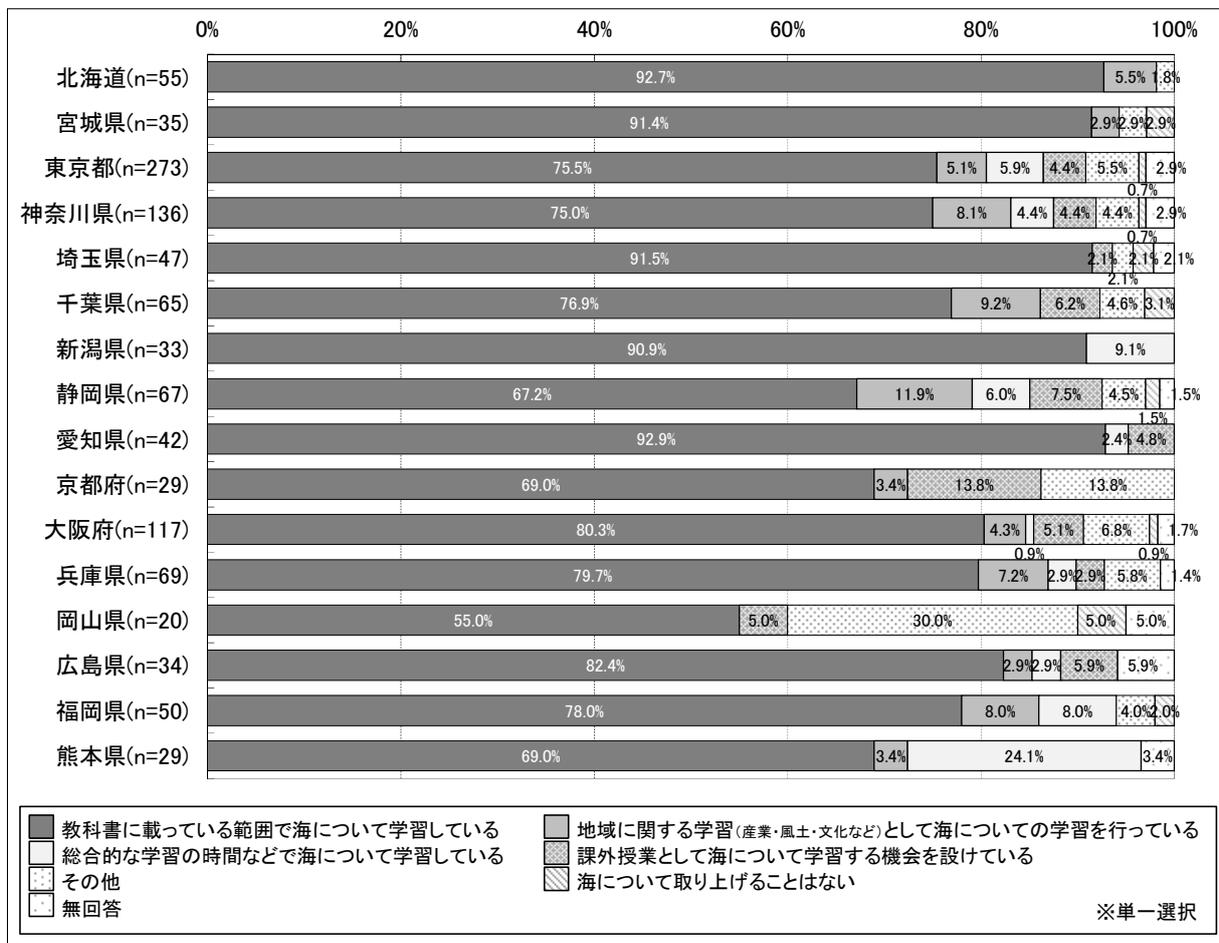


図 3 【問2】海に関する教育や活動の実施状況（県別）

表 3 【問 2】「その他」の自由記述の内容

内容	回答
移動教室・校外学習(25件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年移動教室の時、地びき網体験等の体験活動を行う ・ 修学旅行での学習として水族館学芸員による出前授業 ・ 造船会社主催の工場見学に、5、6年生が50名参加 ・ 3年生…磯の生物調べ、5、6年生…海での水泳及び遠泳 ・ 葛西臨海水族園に遠足で行く。 ・ “磯遊び”として全校一斉に取り組んでいる。 ・ 生活科で学区の海岸たんけんをする。 ・ 移動教室でつり体験、魚市場見学、鯨の開き体験、磯あそびなど。 ・ 海岸近くの水族館へ遠足でかけている。タッチプールなど経験している。 ・ 修学旅行(6年)で、地引網をする(九州、唐津)／野外活動(5年)でボートをこぐ。 ・ 4年生が三重県海へ野外活動に行く。 ・ 水俣の現地学習等で、環境についての学習を深めている。 ・ 生活科で海洋博物館に行き学んでいる。 など
臨海学校(21件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊学習として海事学習を毎年5年生の5月に実施し、環境教育としても充当しています。 ・ 5年の宿泊体験学習で海の学習、または漁業の学習を行っている。 ・ 夏季休業中に1泊2日で6年生の臨海学習を実施 ・ 4年生の宿泊学習として毎年2泊3日伊勢志摩みさきの家へ行きます。磯観察などします など
食育(3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育で魚の授業を実施 など
講師・出前授業の招聘(3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度は外部講師による特別授業で海と環境の学習を5、6年で行いました。 ・ 今年度はおさかな学習会で1～3年生が海のことを学習しました。 など
教科に関連した取り組み(2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語の単元に関連して鮭の放流活動 ・ 国語の物語、説明文、生きもの調べ理科
その他(10件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験学習で海に親しむ機会を設けている ・ 海水魚の水槽を設置している。朝会での話。 ・ 4年総合的な学習の時間の中で、地元の方の協力により地引網体験を実施。 ・ 真珠貝プロジェクトに参加している ・ オリンピック、パラリンピック教育の1つとして行っている ・ 水難を防ぐ学習 など

4.1.2 子どもたちの反応・教育上の効果（問2－1）

- 「漁業・水産業への理解が深まった」が 79.5%で最も多く、次いで「環境問題に関心を持つようになった」(50.0%)、「海の生き物・生態系に関心を持つようになった」(35.6%)と続く。(図 4)
- 海に関する教育・活動の実施状況別に子どもたちの反応・教育上の効果をみると、「教科書に載っている範囲で海について学習している」場合と「地域に関する学習として海についての学習を行っている」場合、「漁業・水産業への理解が深まった」の割合が突出して多くなっている。(図 5 の①)
- 「総合的な学習の時間など」や「課外授業として」海について学習している学校では、「海の生き物・生態系に関心を持つようになった」との回答が最も多い。(図 5 の②)
 - **漁業・水産業への理解は教科書でも学べるが、幅広い教育上の効果を得るには教科書の学習のみでは不十分な可能性がある。**

問2－1	<p>【問2で1～5のいずれかを選択された方(海に関する何らかの教育や活動を実施されている方)に伺います。】</p> <p>子どもたちの反応・教育上の効果はいかがですか？</p> <p>あてはまるものを全て選んでください。</p> <p>①海の生き物・生態系に関心を持つようになった</p> <p>②漁業・水産業への理解が深まった</p> <p>③魚や水産物などを食べるようになった</p> <p>④環境問題に関心を持つようになった</p> <p>⑤外国へに関心を持つようになった</p> <p>⑥自国への理解が深まった</p> <p>⑦海そのものについて関心が高まった</p> <p>⑧その他(具体的に：)</p>
------	---

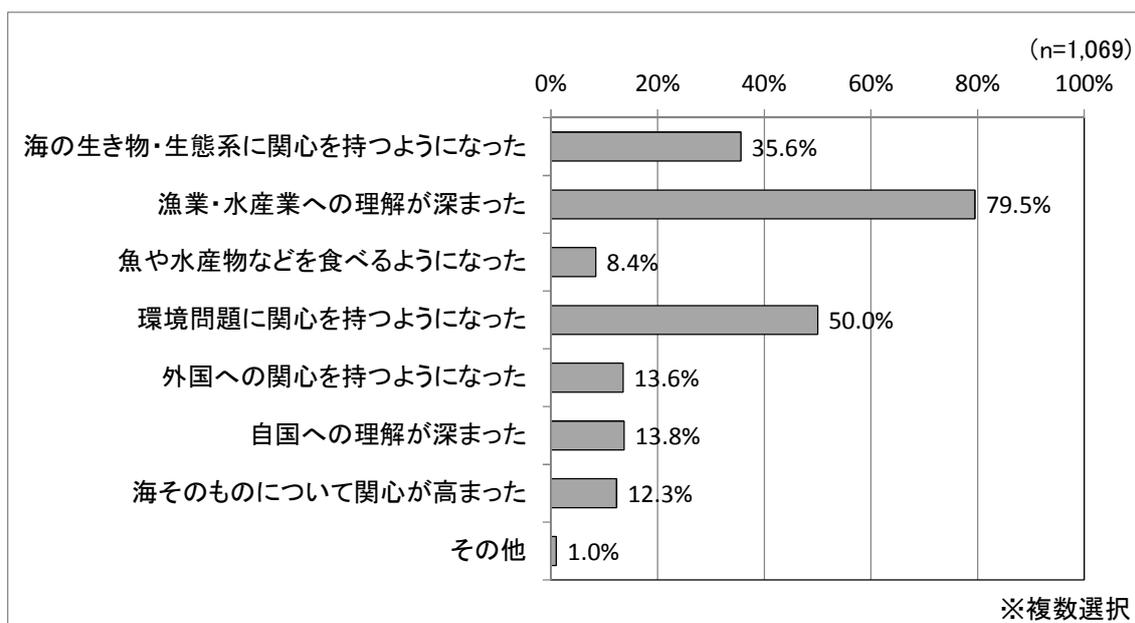


図 4 【問2－1】子どもたちの反応・教育上の効果

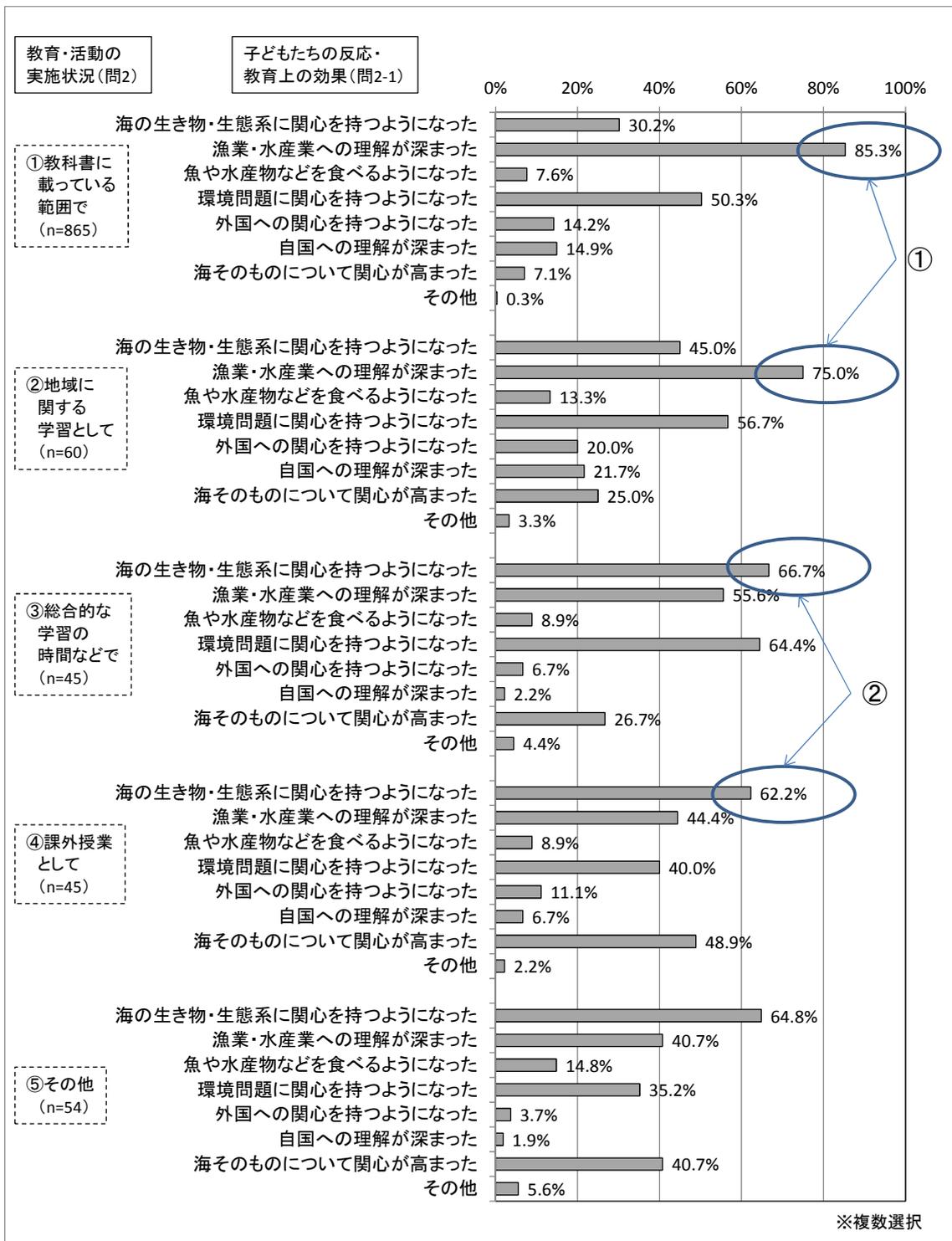


図5 【問2・問2-1】海に関する教育・活動の実施状況別
子どもたちの反応・教育上の効果

表 4 【問 2 - 1】「その他」の自由記述の内容

内容	回答
地域の海や港への理解・関心が深まった(5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校区が漁業の町ということもあり、自分たちの地域のよさを感じることができている。 ・ 地域の港町について理解が深まった。 ・ 地域にある海岸、海の素晴らしさを再確認できた。 ・ 地場産業への理解 ・ 清水港のはたらきについて関心をもつようになった。
その他(6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 命を大切にしようとする気持ちが育っている ・ 海運・物流 ・ 領海について考える機会となった。 ・ 泳力を伸ばす ・ 本年度10月に実施 ・ 特に海洋教育を意識していないので、それなりの関心は、もたせたが。

4.2 海と魚に関わる体験学習への取り組みについて

4.2.1 訪問・見学型授業の実施状況（問6）

- 「実施している」・「過去に実施したことがある」を合わせた実施実績あり層は 62.3%。
（図 6）
- 一方、「実施したことはない」との回答は、海に面していない埼玉県（80.9%）、北海道（札幌市・54.5%）で高い。（図 7）

問6	貴校では、体験学習の一環として、海辺・水辺、または施設等を訪れる（訪問・見学型）授業を実施していますか？ 現在の勤務校について分かる範囲で、あてはまるものを1つ選んでください。 ①実施している ②過去に実施したことがある ③実施したことはない ④わからない
----	---

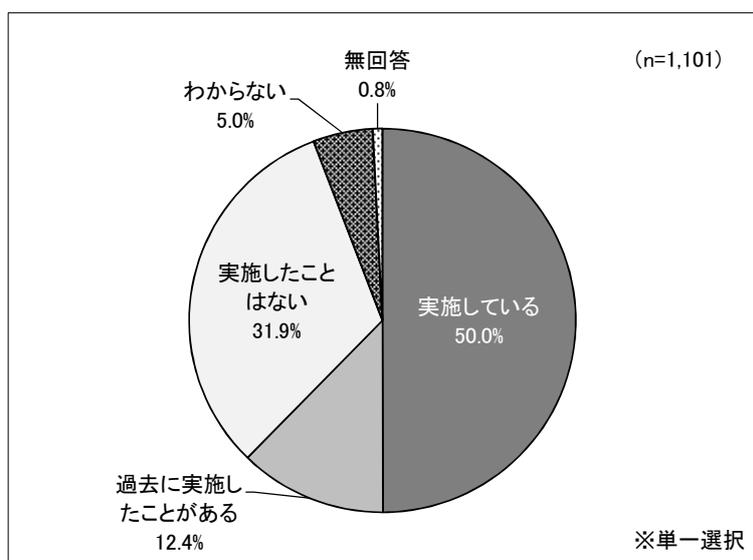


図 6 【問6】海辺・水辺、または施設等を訪れる（訪問・見学型）授業の実施状況（全体）

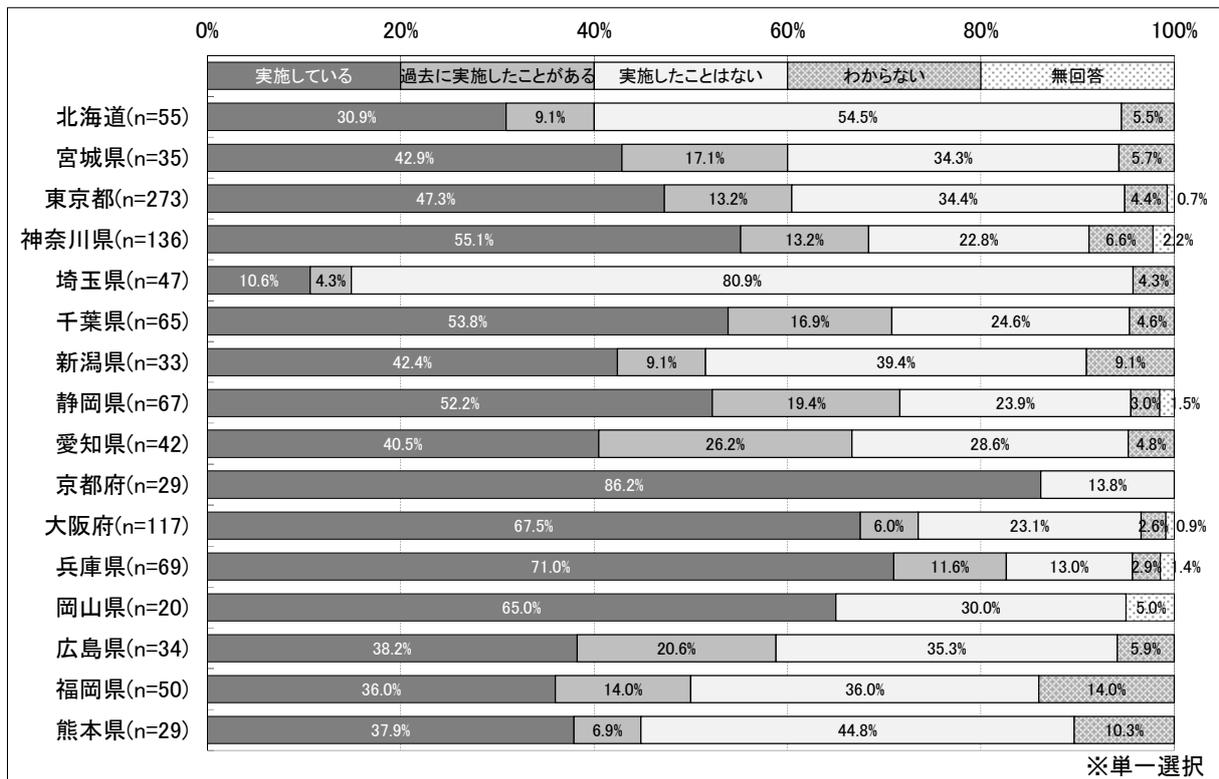


図 7 【問6】海辺・水辺、または施設等を訪れる（訪問・見学型）授業の実施状況（県別）

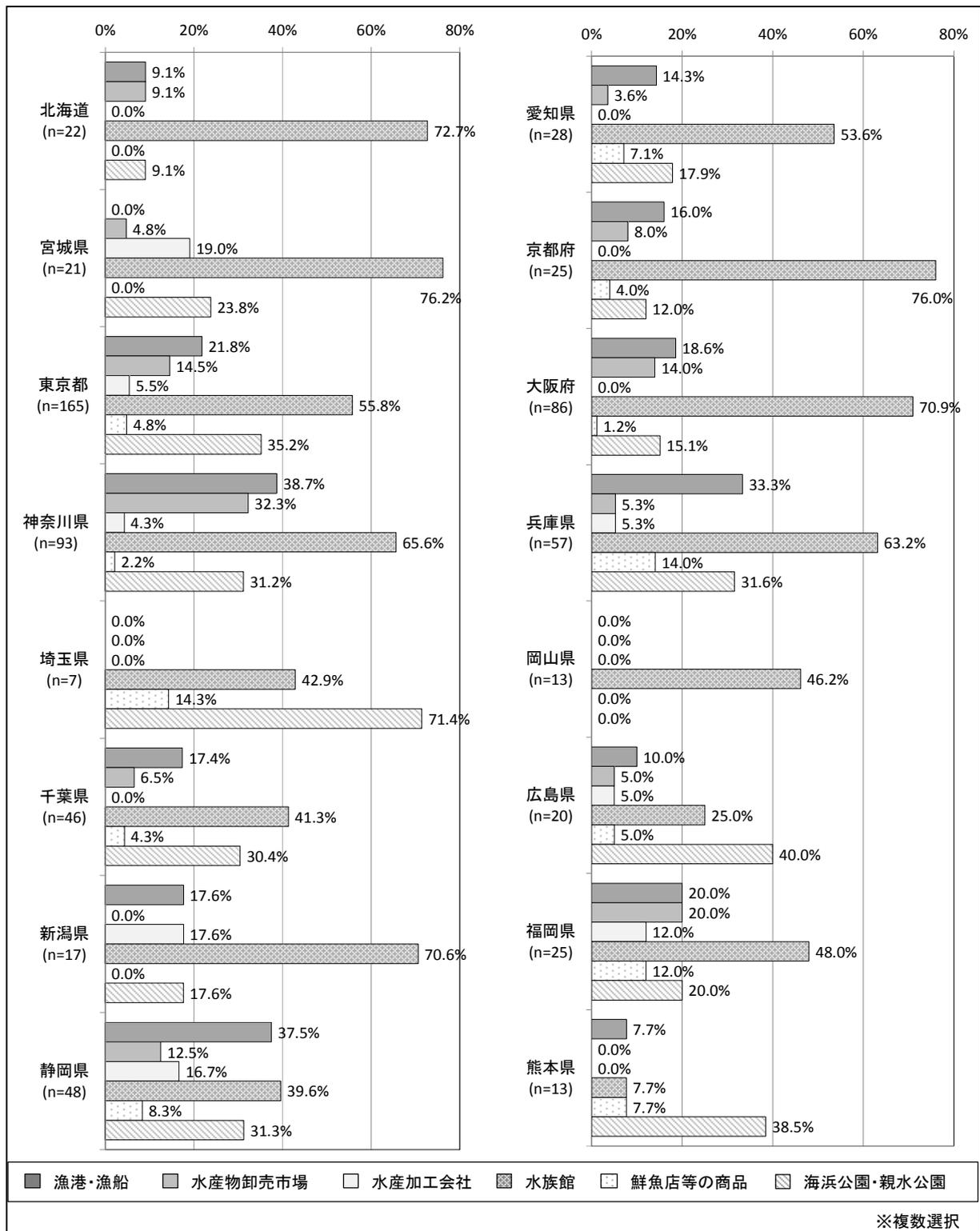


図 9 【問 6-1】訪問・見学型授業で訪れたことのある施設（県別）

表 5 【問6-1】「その他」の自由記述の内容

内容	回答
海辺・水辺での移動教室(92件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活科、理科の学習で地域の川へ行く。田で生き物を探る。 ・ 川の上流 ・ 大房岬(移動教室) ・ マリンスポーツ体験 ・ 潮干刈 ・ 多摩川水辺の楽校 ・ つり(川) ・ うに採り ・ 湾内を船で一周 ・ 磯観察 ・ 溪流魚つかみどり ・ 地引網 ・ ため池・湿地保全グループによる里山観察 ・ 川の生きもの観察 ・ 学区内の河川にて野鳥観察 ・ 兵庫運河 ・ カヌー体験 ・ 磯遊び6年、海上保安部5年 ・ 遊覧船乗船、ラフティング ・ 七北田川での鮭の放流など ・ 海辺の散策、魚さばき体験 ・ 「地質学習」で海岸の見学を実施している ・ かきの養殖場、地引網 など
海辺・川辺での宿泊研修等(60件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日光修学旅行でアユのつかみどり ・ 臨海学校で海洋センターでの体験授業。 ・ 農山村留学にてカッター訓練・磯遊び ・ 6年の農山村留学では、磯遊びを行っている。 ・ 5年生で海に関する内容を取り入れた宿泊体験学習をしている。 ・ 宿泊行事で、「海辺の生き物」の学習を行った ・ 魚つり体験(修学旅行) ・ 佐渡修学旅行でのイカ裂き ・ 湖畔に位置した青年の家での宿泊体験 ・ 海の学校(1泊2日校外学習5年、カッター、地引きあみなど) など
自然環境関連施設(25件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 谷津干潟自然観察センター ・ 自然教育園の池、自然観察 ・ マリンピア神戸さかなの学校。 ・ 海の博物館 ・ 相模川の博物館 ・ 市の環境センター(浜の生物の学習館) ・ 小豆島に近接する「余島」野外活動センター ・ 海洋センター ・ 大森のりのふるさと館 ・ 府立海洋センター ・ 水俣環境センター他および、付近の海岸 ・ 児島湾資料室 ・ 水俣の環境センターと資料館、バスの車窓から水俣湾を見ます。←熊本県の小五は全員実施 ・ 公害について学ぶための施設 など

内容	回答
産業関連施設 (22件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培漁業センター、神戸港の港めぐり ・ 養殖施設見学 ・ 水産技術センター ・ 水産試験場 ・ 商業港(名古屋港) ・ 工業港 ・ 港めぐり ・ 栽培漁業センター ・ 港湾施設 ・ 漁協訪問 ・ 名古屋港。市で実施しているスタディツアーへの参加 ・ 下水処理施設 ・ 広島市水産振興センター など
その他(9件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ のりすき、ひものづくり ・ 地域の“のり”づくり体験 ・ 海洋大学、港湾(さけの放流) ・ アジの開き作り ・ 出前授業 ・ 講師が来校して水辺の生き物について学習する ・ 川のはたらきの学習 など

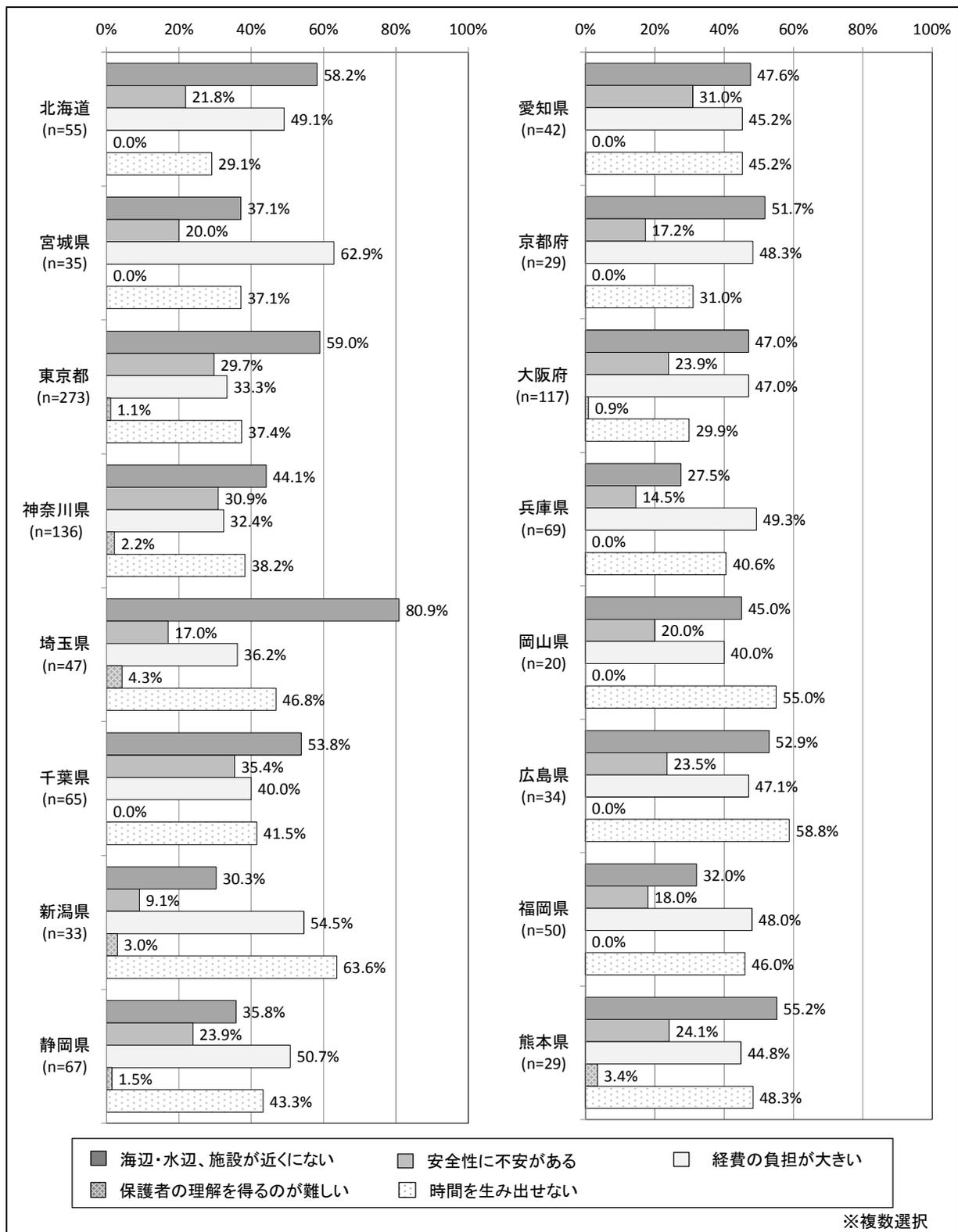


図 11 【問 7】訪問・見学型授業実施の上での課題（県別）

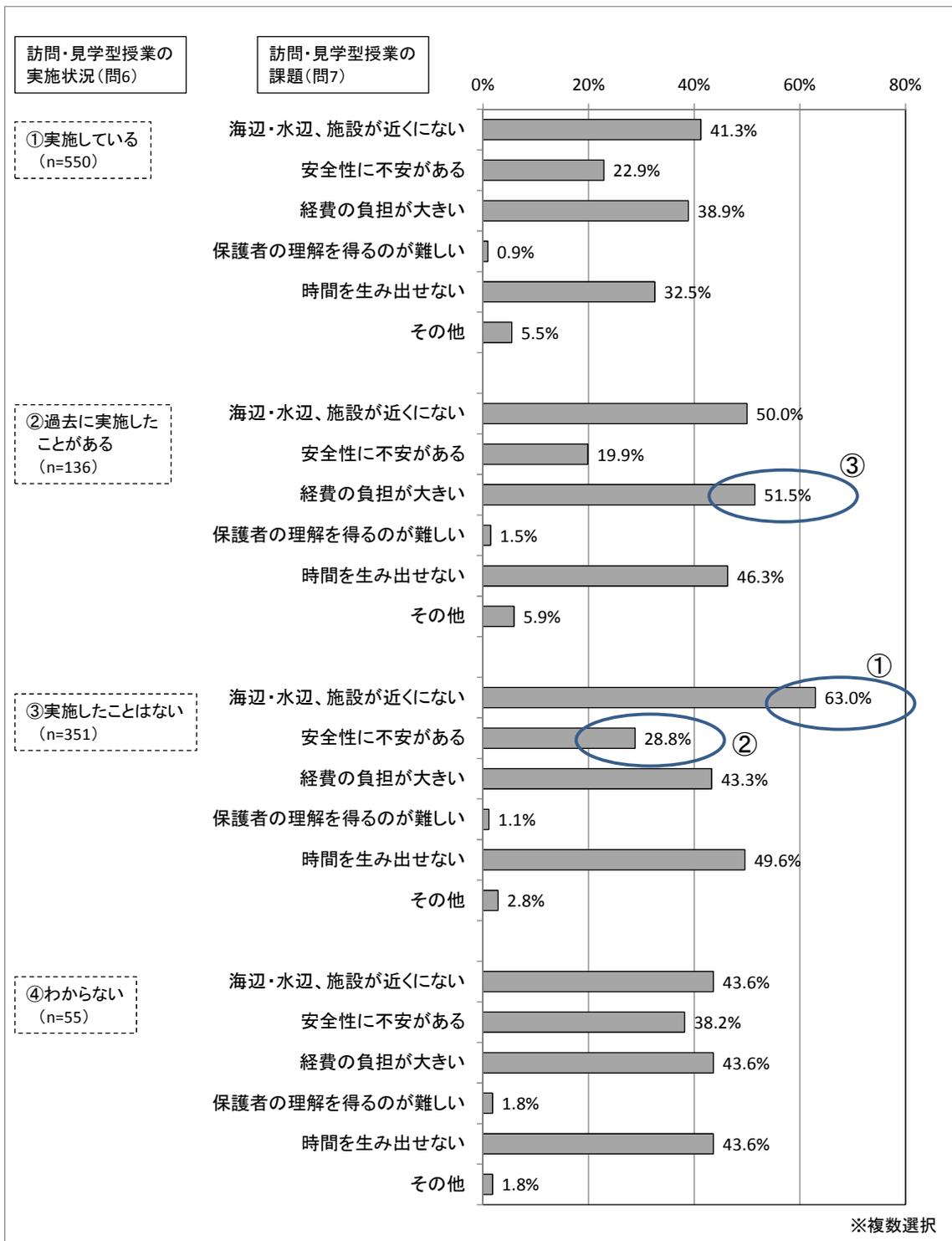


図 12 【問 6・問 7】訪問・見学型授業の実施状況別課題認識

表 6 【問7】「その他」の自由記述の内容

内容	回答
天候(7件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天候に左右されることが多い。本年度も大雨のため延期して実施した。 ・ 天候に左右され実際に海の活動ができにくい。 など
教育課程上の位置づけ(6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課題の設定 ・ カリキュラムの中にどう位置付けたらよいか時間的な面も含めて検討課題 ・ 目的が明確でない ・ 小学生向けになっていない。やや学術的で難しいイメージ など
時期や時間調整(6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専科制をとっているため、授業の調整が必要となる。 ・ 新しい学習を計画することは、授業時数の制約上難しい。 ・ 学習する時期 ・ 他の学習との関係で何度も校外学習を組めない など
訪問・見学場所の選定・確保(5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ せりの様子とかを見学したいが適当な施設がない ・ アポイントが取りにくい。(漁業、販売系) ・ 学年(その年度の)によって行き先が変わる ・ 人気が高く、当たらないとできないこと ・ 効果的な場所が近くにない。
指導者の問題(4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者の数の確保 ・ 海洋教育に関する職員研修を優先して考えるため ・ 計画や準備のための教員の時間がとれない ・ 指導者・プログラムが不十分
環境面の問題(3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被災児童がいる。 ・ 施設内学校のため、外との交流が難しい! ・ 地域として山の上にあるため、生活と結びつかない
課題はない(3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に課題は感じていない
その他(13件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アレルギー問題 ・ 交通手段 ・ 地震・津波対策に対する避難体制 ・ 東日本大震災後、5年生の宿泊行事が清水臨海学校が林間学校に変更となったため。 ・ 安全の確保 など

4.2.4 体験型授業の実施状況（問8）

- 「実施している」・「過去に実施したことがある」を合わせた実施実績あり層は 34.8%。
京都府・静岡県・神奈川県で特に高い。（図 13、図 14）
 - 京都府は食育、静岡県・神奈川県は水産業の影響が考えられる。
- 一方、「実施したことはない」との回答は 54.1%。（図 13）
 - 訪問・見学型授業よりも実施上のハードルがかなり高いことが分かる。（図 6、図 13）

問8	<p>貴校では、体験学習の一環として、水辺の生物に触れる・食す授業を実施していますか？</p> <p>現在の勤務校について分かる範囲で、あてはまるものを1つ選んでください。</p> <p>①実施している ②過去に実施したことがある ③実施したことはない ④わからない</p>
----	---

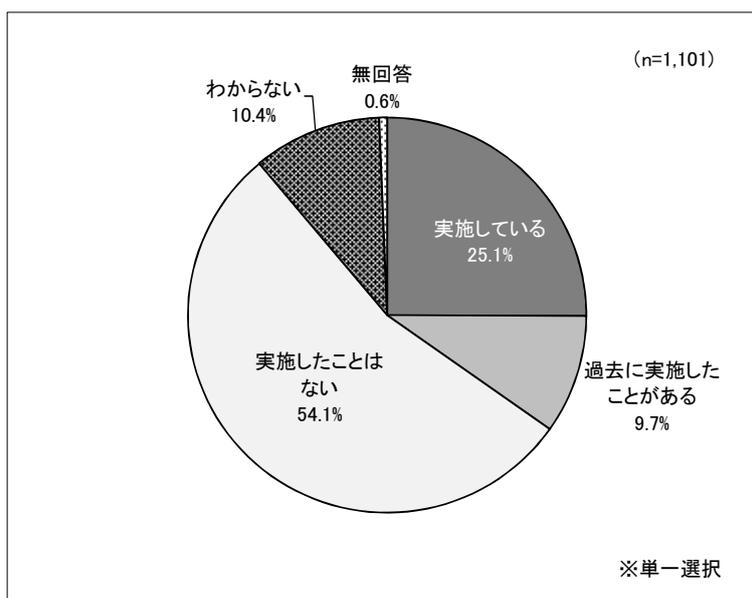


図 13 【問8】水辺の生物に触れる・食す（体験型）授業の実施状況（全体）

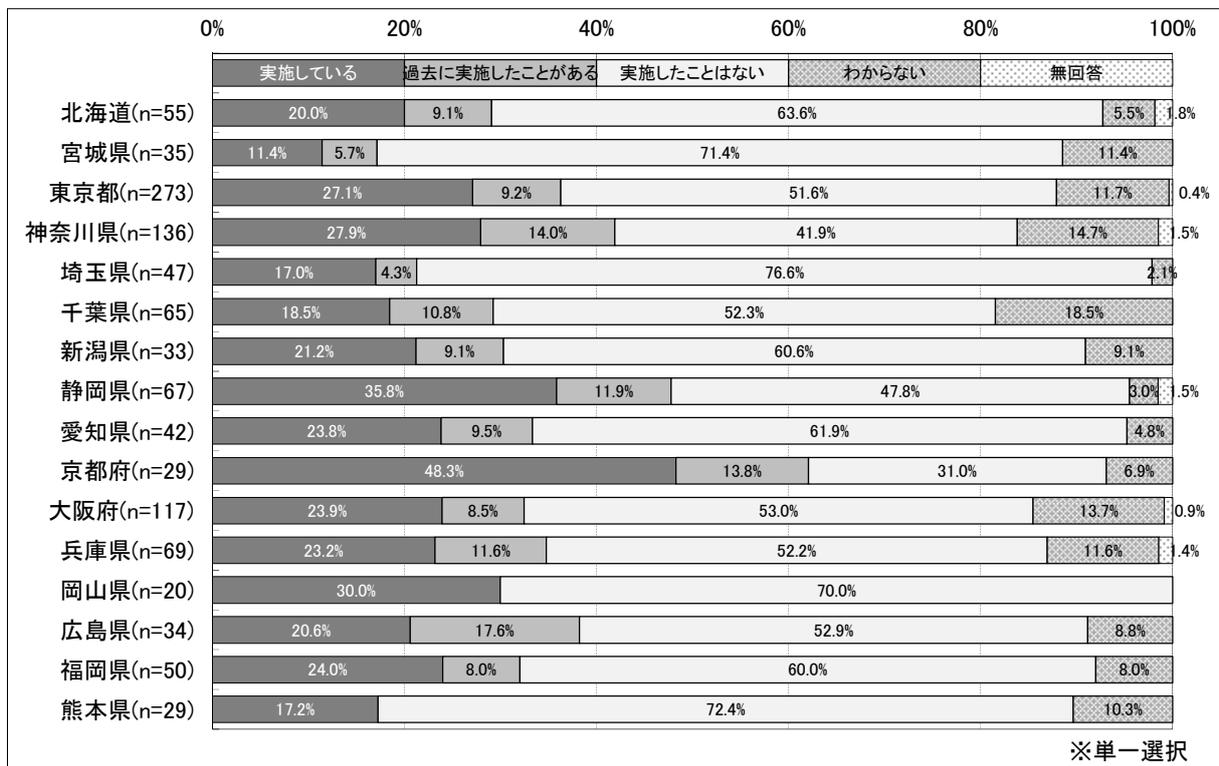


図 14 【問 8】水辺の生物に触れる・食す（体験型）授業の実施状況（県別）

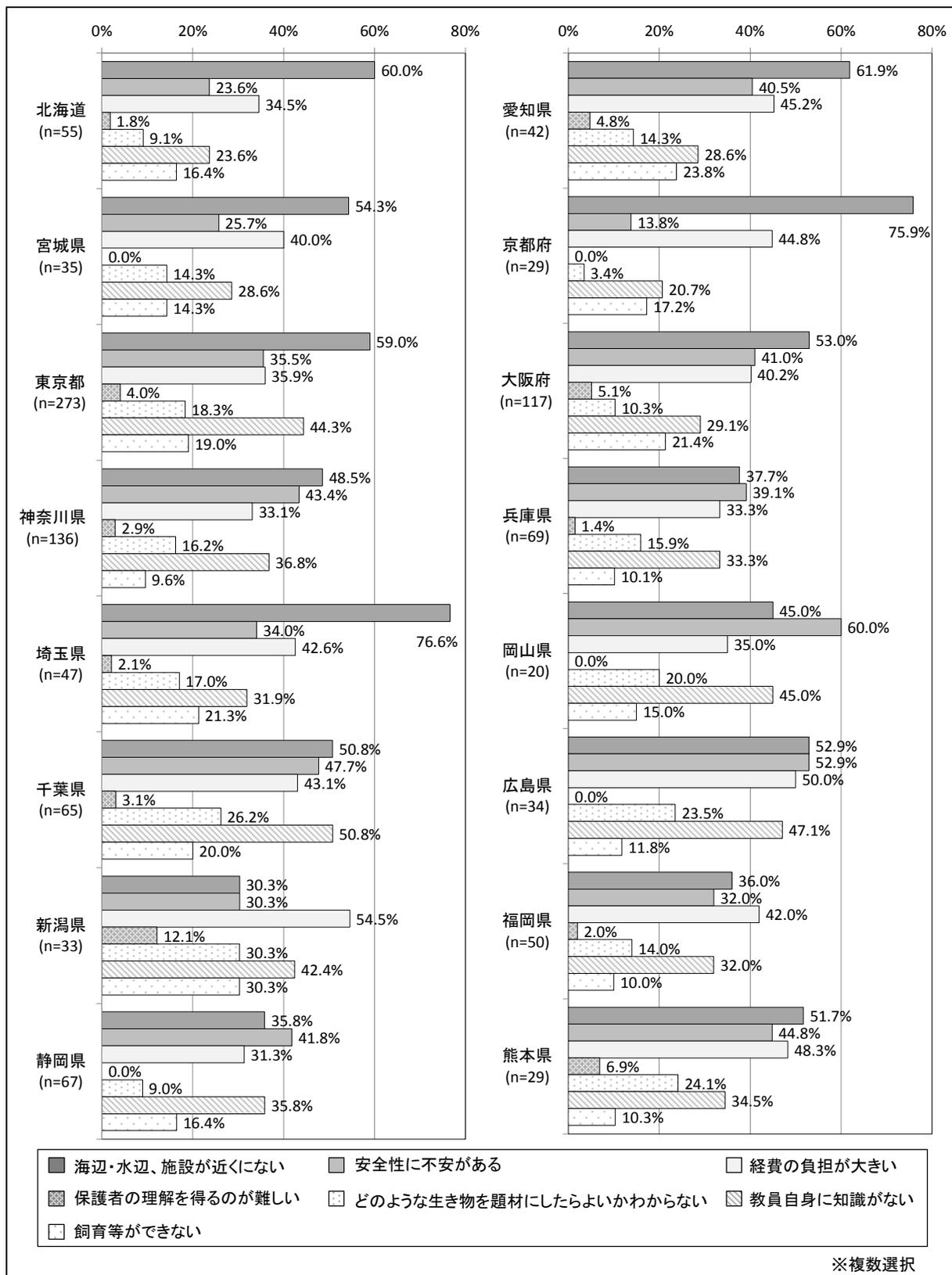


図 16 【問 10】体験型授業実施の上での課題（県別）

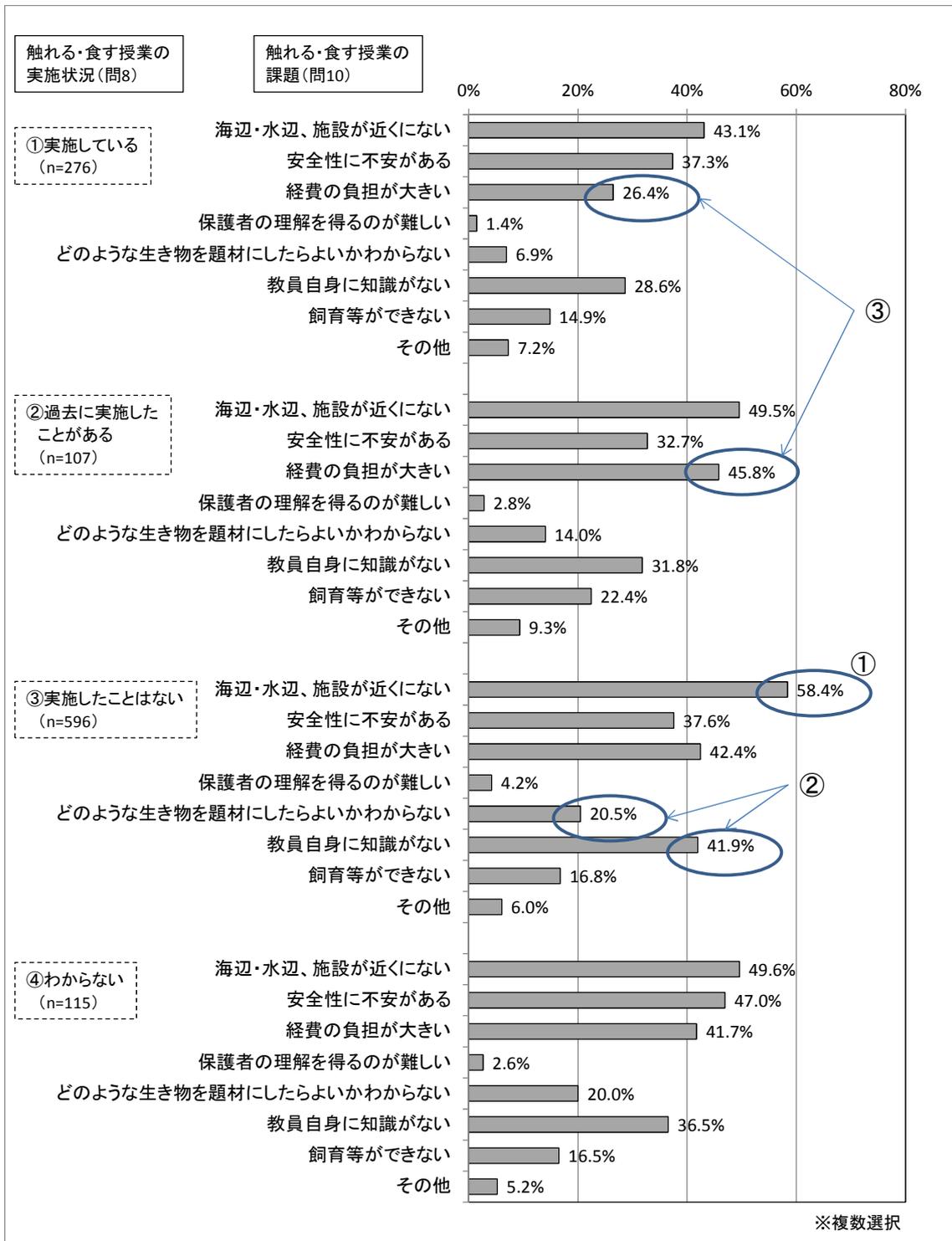


図 17 【問 8・問 10】体験型授業の実施状況別課題認識

表 7 【問 10】「その他」の自由記述の内容

内容	回答
時間の確保(24件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専科制をとっているので、校外学習を実際する際に時間の調整が必要となる。 ・ 実施する時間がとれない。 ・ 新しい学習の計画は、授業時数の制約上難しい。 ・ すでに他の学習領域で時間を費やして時間がない。 など
学習の位置づけ・他の授業との関係(17件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の自然を教材にした授業を実施しており時数的余裕がない ・ 教育計画の中に取り入れるとなると、今ある体験学習を精査し、子どもにとって学ばせたいものの優先順位をつける必要がある。 ・ 既存の行事で学習成果が上がっており、新たに実施する余地はないため ・ 教育課程上の位置付け ・ 教材として指導の効果を向上させること。 ・ 他の学習とのバランスでどうしても必要なものが優先になる ・ 水辺の生物という学習材をどのように活用することで子どもにどのような資質能力が育つのか、などが十分周知されていない など
アレルギー対策(14件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ アレルギーの児童が増えていることと、初発のアレルギー反応が起きる危険性。 ・ 食す授業ではアレルギー対応が大変で実施することに抵抗がある。 など
安全・衛生面(5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食すことを授業で行うことには、抵抗を感じる。 ・ 口に入れる物は何かあってはいけないので難しい。 ・ 生魚を扱うことができない。 ・ 「食す」について、家庭科室を利用できないきまりがある。 など
問題はない・分からない(6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし(既に問題なく実施しているため) ・ 地域の漁業協同組合と協力ができているので問題はない。 ・ わからない など
その他(7件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世話が大変である。 ・ 施設内学校のため、外との交流が難しい！ ・ 天候に左右される ・ 飼育もしてみたいが… ・ 協力者がほしい。食には理解がかかる。 など

4.2.6 魚に関する食育の実施状況と内容（問9）

- 最も多い回答は「魚の産地の学習」で 31.1%、次いで「和食、郷土料理についての学習」(21.1%)、「魚特有の栄養についての学習」(20.8%)。(図 18)
 - 現状としては、非体験型の内容のほうが実施上のハードルが低いものと考えられる。
- 京都府では「和食、郷土料理についての学習」・「魚の食べ方の学習」との回答が突出して多く、いずれも 5 割以上。(図 19)

問9	魚に関する食育を実施したことがありますか？また、どのような取り組みですか？あてはまるものを全て選んでください。 ①魚の産地の学習 ②昔と今の魚食の変化についての学習 ③魚特有の栄養についての学習 ④和食、郷土料理についての学習 ⑤魚の食べ方の学習 ⑥魚の鮮度から選び方などの学習 ⑦その他（具体的に：)
----	---

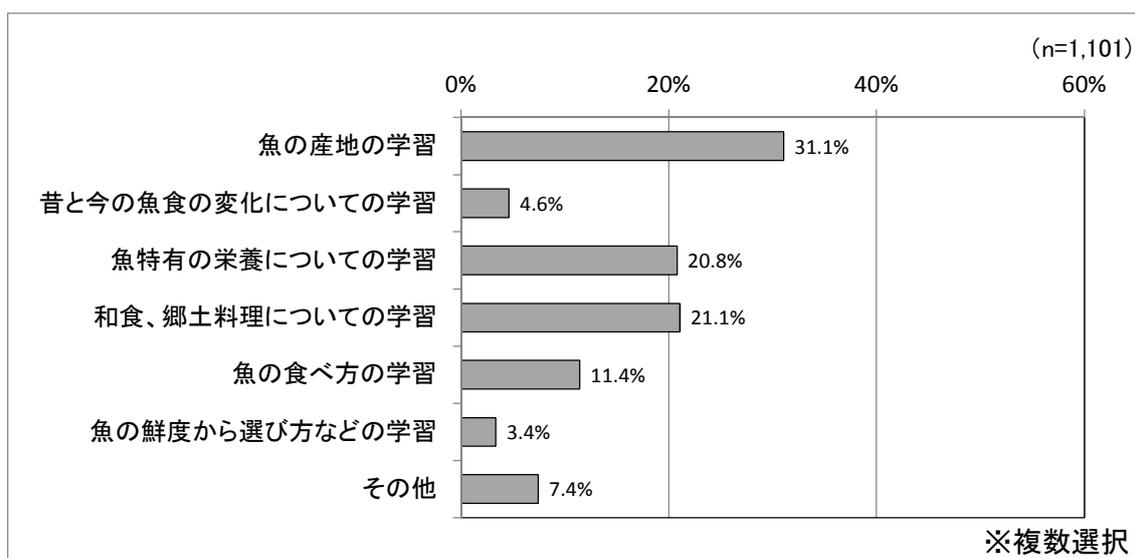


図 18 【問9】魚に関する食育の実施状況と内容（全体）

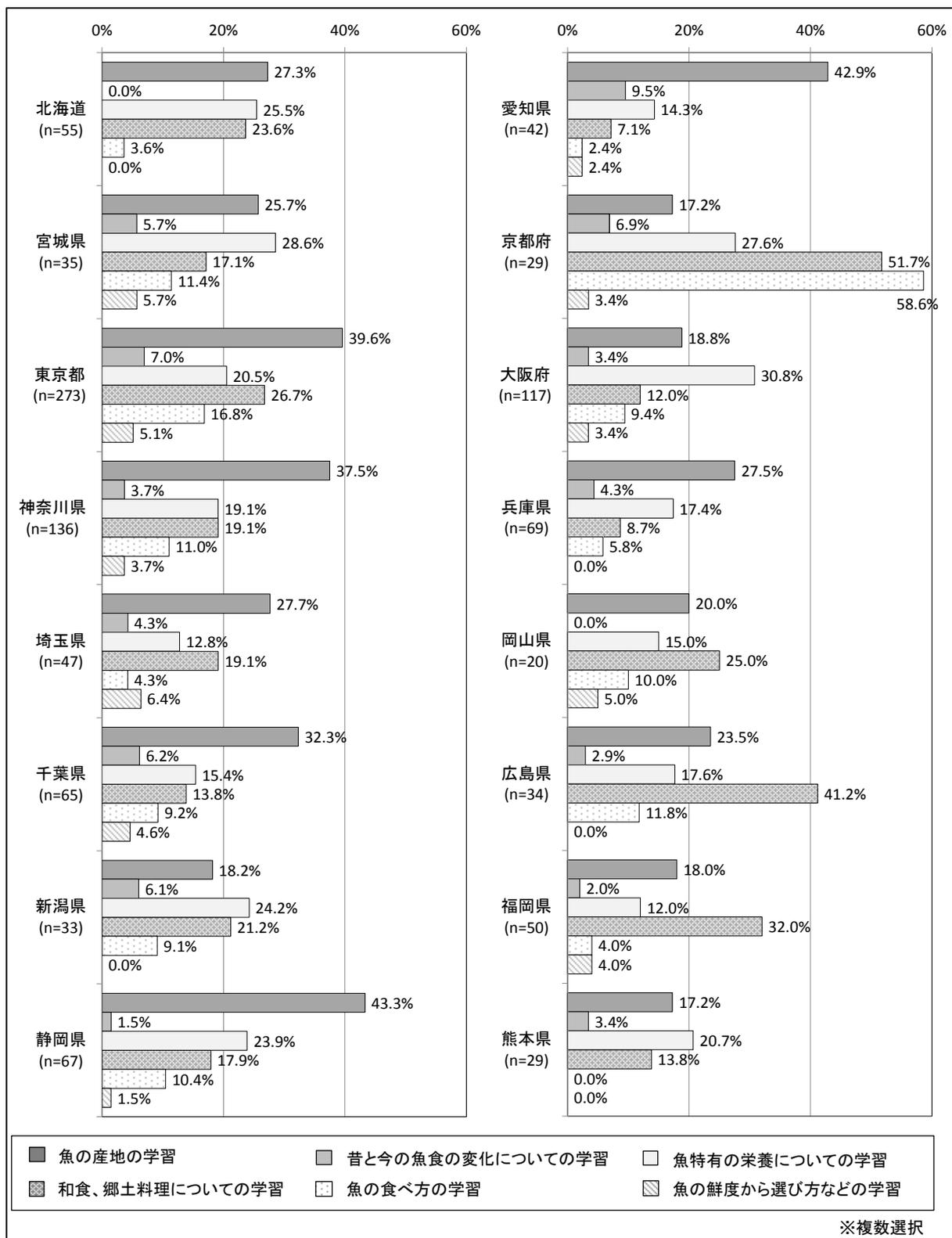


図 19 【問 9】 魚に関する食育の実施状況と内容（県別）

表 8 【問9】「その他」の自由記述の内容

内容	回答
給食を通じた教育(15件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食で一口メモとして栄養士による説明 ・ 東京都八丈島でとれた、トビウオを使ったメンチを給食で提供。 ・ 給食指導の一つとして、魚の産地や種類等の紹介をしている。 ・ 給食の地産地消の一つとして紹介 ・ 給食の際に話をしたり、栄養士からのおたよりを読み聞かせたりがまわってきて食べ物クイズをしたりしてくれている。 ・ 給食献立紹介を校内放送で(郷土の魚ままかり、季節の魚さわらなど)。スクールランチセミナー(授業外、休業中イベント) など
調理して食す体験(11件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 干物づくり体験 ・ アジの開きをつくる ・ 受精したさけを保護者が調理し、児童が食す ・ 魚の住む海の深さ(種類ごと)ブリの解体見学、小アジの手開き体験 ・ 魚の3枚おろしの体験 ・ すし体験 ・ 野外活動の一環として、養そん場でマス釣りをして自ら内臓を取り出し、焼いて食べる体験 ・ 魚市場の協力で魚を調理し、食べる学習(出前板さん授業) など
実施していない・分からない(26件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚について、特に意識した(テーマをしぼった)食育は実施していない。 ・ 食育の実施はない ・ 分からない など
その他(12件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魚の解剖(アジ、区理科実験支援事業) ・ ランチルームに実物大の魚の絵を掲示して授業をしている。 ・ 家庭科の栄養素についての学習や献立づくりでふれる程度。 ・ 魚に特化するわけではなく食材の1つとしての魚の学習 ・ 神奈川県でとれるわかめを使っての「わかめ学習」 ・ 八丈島の方に来てもらい漁業等について話してもらった。 ・ 市場の方に来校して頂いた ・ 魚フィズ など

4.3 「おさかな学習会」について

4.3.1 「おさかな学習会」の認知（問3）

- 全体では、「実施したことがある」が4.1%、「内容も含めて知っている」と「名称を聞いたことがある」を合わせた認知はしているが実施していない層が17.3%、「知らない」が78.2%。（図20）
- 県別にみると、静岡県で「実施したことがある」が突出して多い。（図21）

問3	「おさかな学習会」という取り組み（または、その他の海と魚に関する出前授業）をご存知ですか？あてはまるものを1つ選んでください。 ①実施したことがある ②内容も含めて知っている ③名称を聞いたことがある ④知らない
----	--

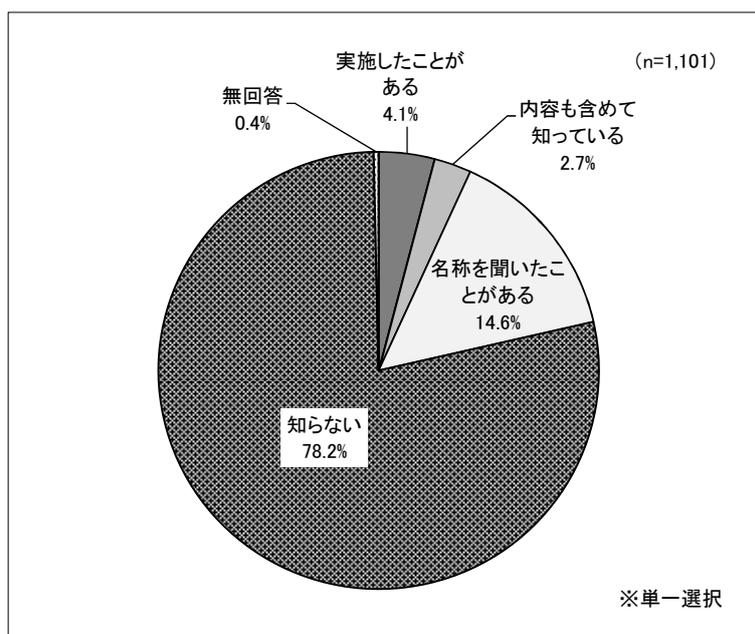


図20 【問3】おさかな学習会の認知（全体）

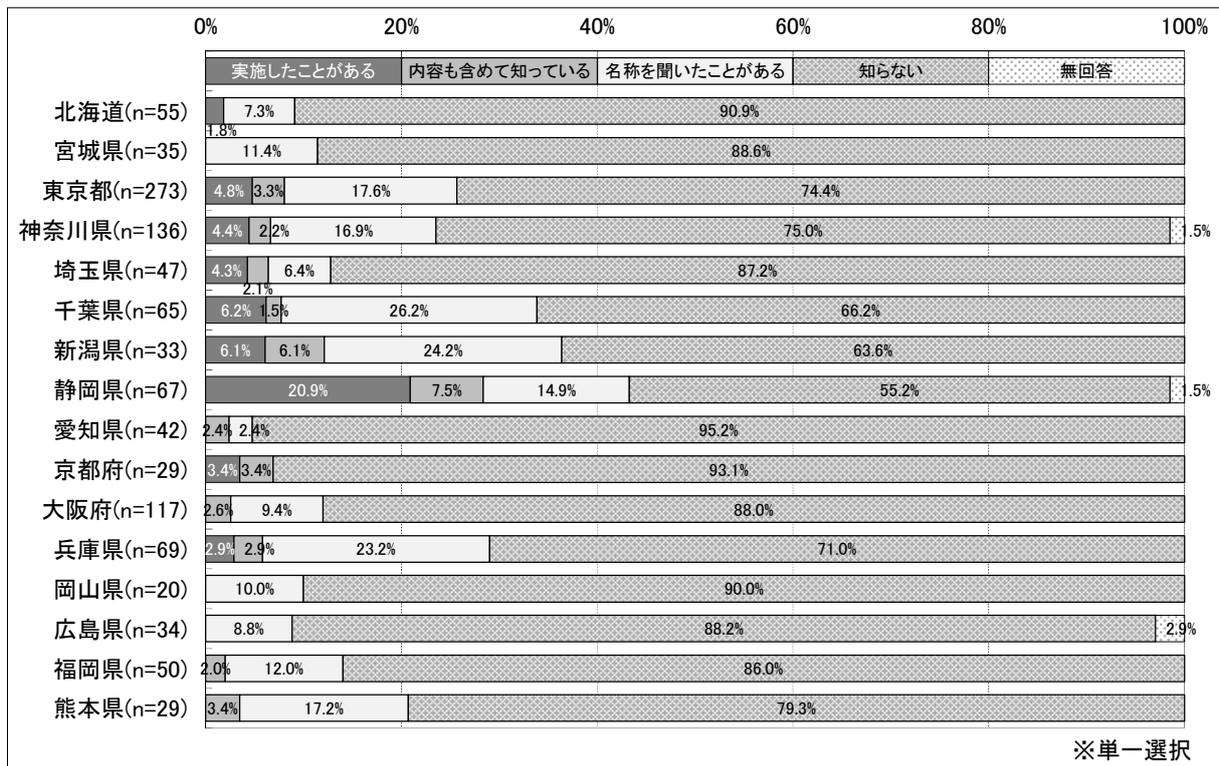


図 21 【問3】おさかな学習会の認知（県別）

4.3.2 「おさかな学習会」で体験させたいプログラム（問4）

- 体験させたいプログラムについては、「おさかなゼミ」が最も多く 61.0%。（図 22）
 - 「模擬漁体験」・「タッチプール」は 5 割以上が体験させたいと回答。一方、一番少ない「鮮魚タッチ」でも 3 割以上が体験させたいと回答。（図 22）
- **生きている生き物に触れさせる体験のできるプログラム、あるいは大人数が一斉に体験できるプログラムのニーズが高いと考えられる。**

問4	<p>「おさかな学習会」では、以下のようなプログラムを実施しています。貴校の子どもたちに体験させたいと思うものを全て選んでください。</p> <p>①おさかなゼミ （パワーポイントや動画、クイズなどで分かりやすく「海と魚」について勉強します。本物の漁具や魚の骨などにも触れます。）</p> <p>②模擬漁体験 （「カツオの一本釣り」や「投網」などを自分で実際にやってみます。カツオの模型は本物と同じような重さです。）</p> <p>③タッチプール （いろいろな生きた魚を自分の手で触って生き物の感触を確かめます。）</p> <p>④鮮魚タッチ （魚市場より仕入れた鮮魚に自分の手で触って魚の感触を確かめます。）</p> <p>⑤料理教室（保護者や子供たちに 3 枚卸など魚料理を教えます。）</p>
----	---

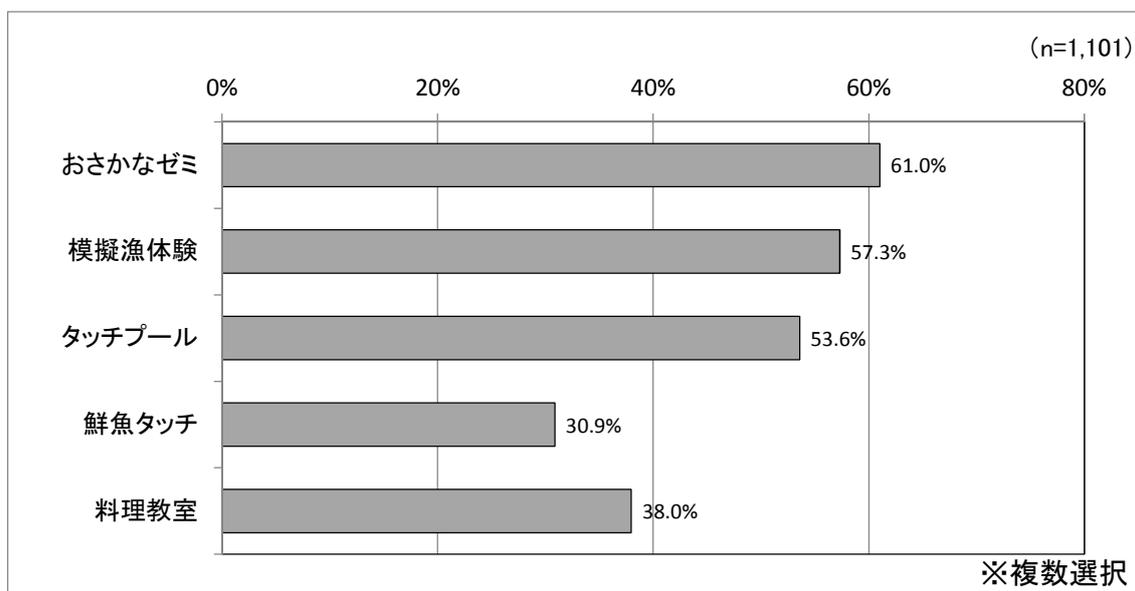


図 22 【問4】「おさかな学習会」で体験させたいプログラム

4.3.3 「おさかな学習会」の実施意向（問5）

- 「実施したいと思う」・「どちらかと言えば実施してみたいが、もう少し具体的に内容を知りたい」を合わせた実施意向あり層が 60.4%。（図 23）
- 県別にみると、千葉県での実施意向が突出して高く、80.0%。そのほか、新潟県・静岡県・東京都なども全体に比較して実施意向が高い。（図 24）
- 「おさかな学習会」を「実施したことがある」と回答した学校では、「実施したい」が 73.3%。（図 25）
 - **一度実施すれば、極めて高いリピート意向を得られる。**
- 実施したことはないが「内容も含めて知っている」・「名称を聞いたことがある」、または、「知らない」と回答した学校の間で、「実施したいとは思わない」の選択比率には差がない一方、認知度が高い層ほど「実施したい」の比率が増加する。（図 25）
 - **認知の促進が実施意向につながると考えられる。**
- 「おさかな学習会」の実施意向別に体験させたいプログラムをみると、「実施したい」と回答した学校と「どちらかと言えば実施してみたいが、もう少し具体的に内容を知りたい」と回答した学校では、「鮮魚タッチ」・「料理教室」の選択率における差が大きい。（図 26 の①）
 - **実施の決定や実施意向の向上においては、衛生面等に関する不安の低下が重要と考えられる。**
- 「おさかな学習会」を「実施したいとは思わない」・「わからない」と回答した学校でも、「おさかなゼミ」・「模擬漁体験」・「タッチプール」については比較的関心が高い。（図 26 の②）
 - **実施意向のない層・わからないとする層においても、プログラム自体への関心はあることから、海洋・水産教育や「おさかな学習会」自体の意義・教育効果等については一定の理解があるものと推測される。**

問5	<p>今後機会があれば、「おさかな学習会」を貴校で実施してみたいと思いますか？ あてはまるものを1つ選んでください。</p> <p>①実施したいと思う ②どちらかと言えば実施してみたいが、もう少し具体的に内容を知りたい ③実施したいとは思わない ④わからない</p>
----	---

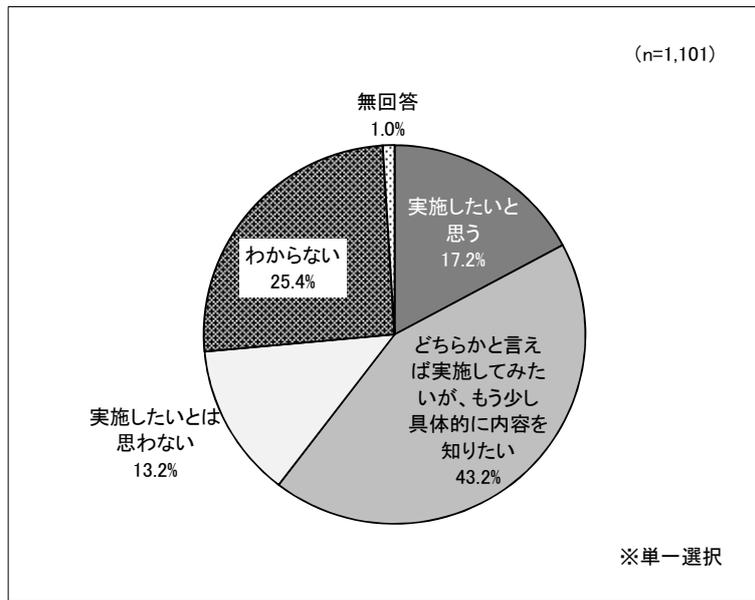


図 23 【問5】「おさかな学習会」の実施意向（全体）

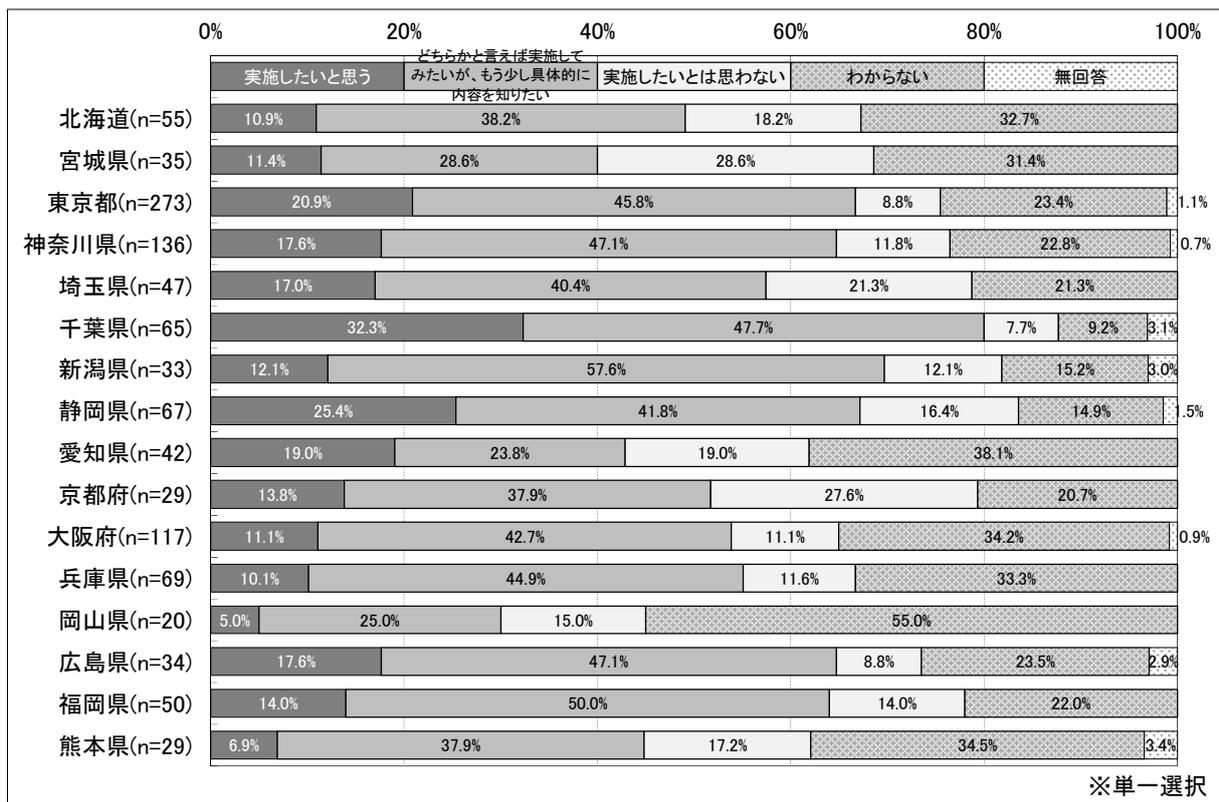


図 24 【問5】「おさかな学習会」の実施意向（県別）

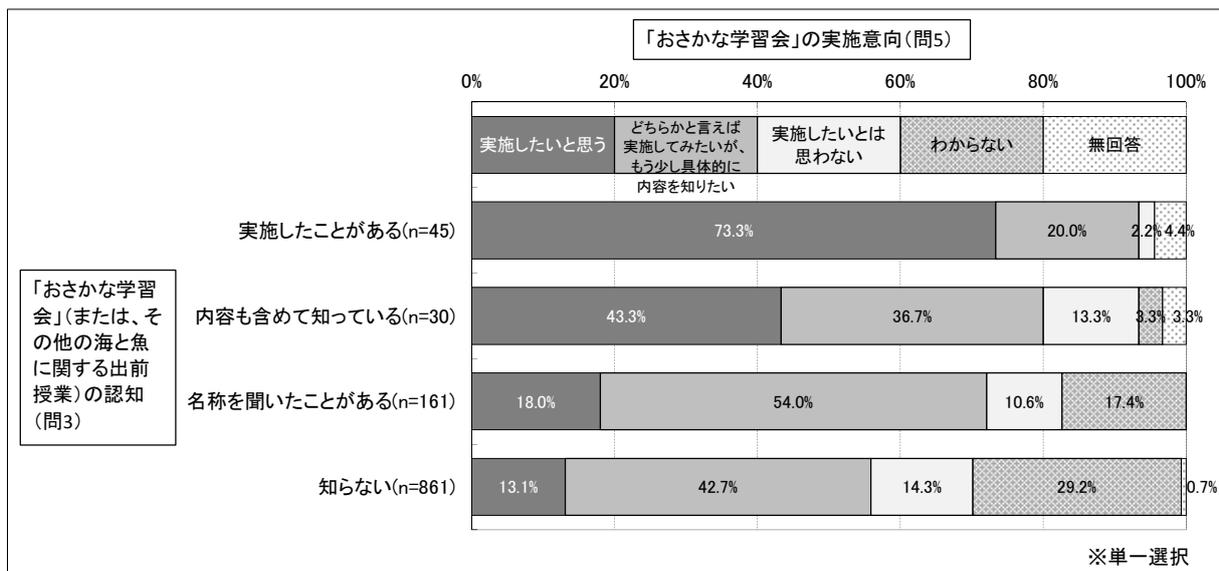


図 25 【問3・問5】「おさかな学習会」の認知度別実施意向

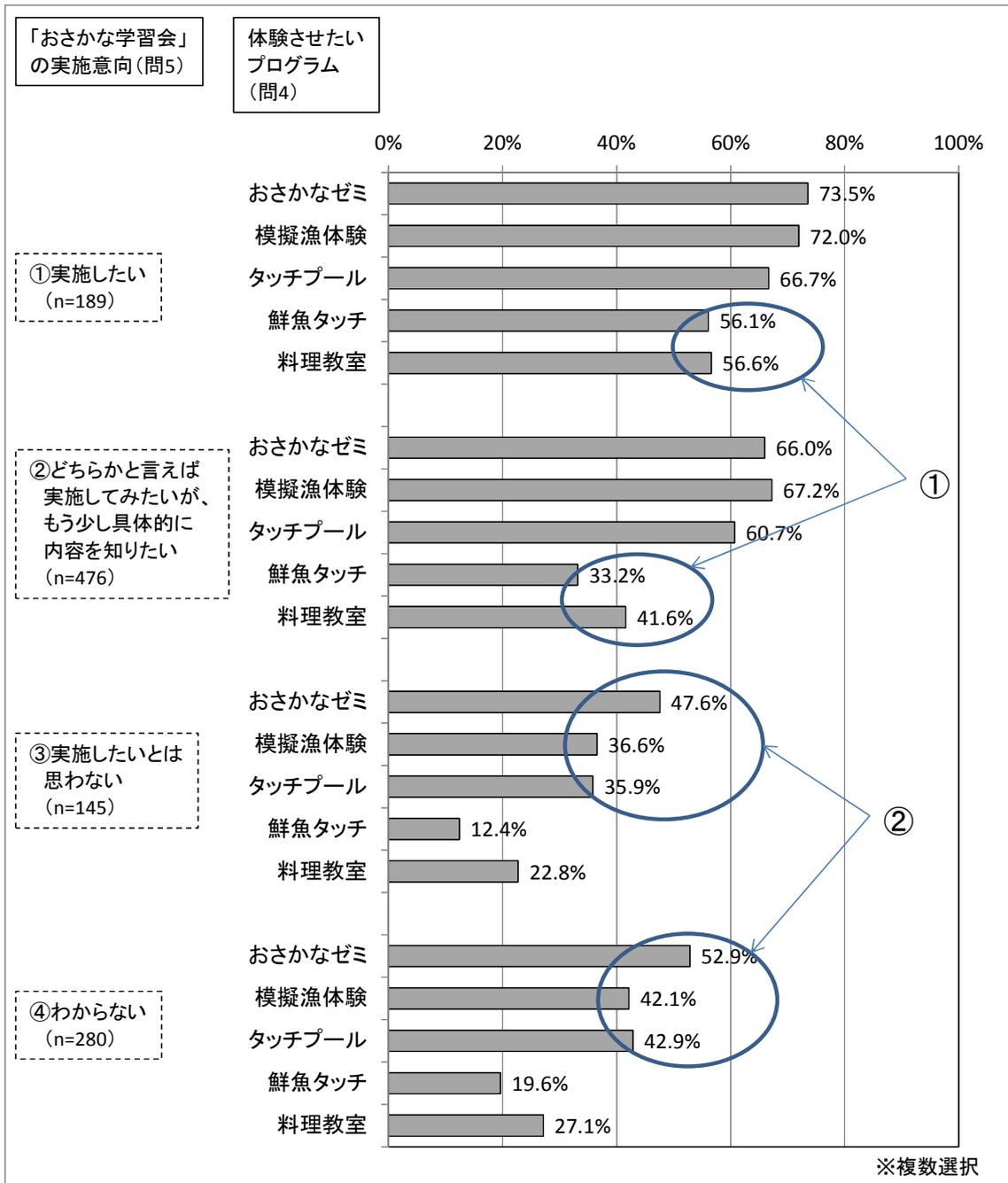


図 26 【問5・問4】「おさかな学習会」の実施意向別体験させたいプログラム

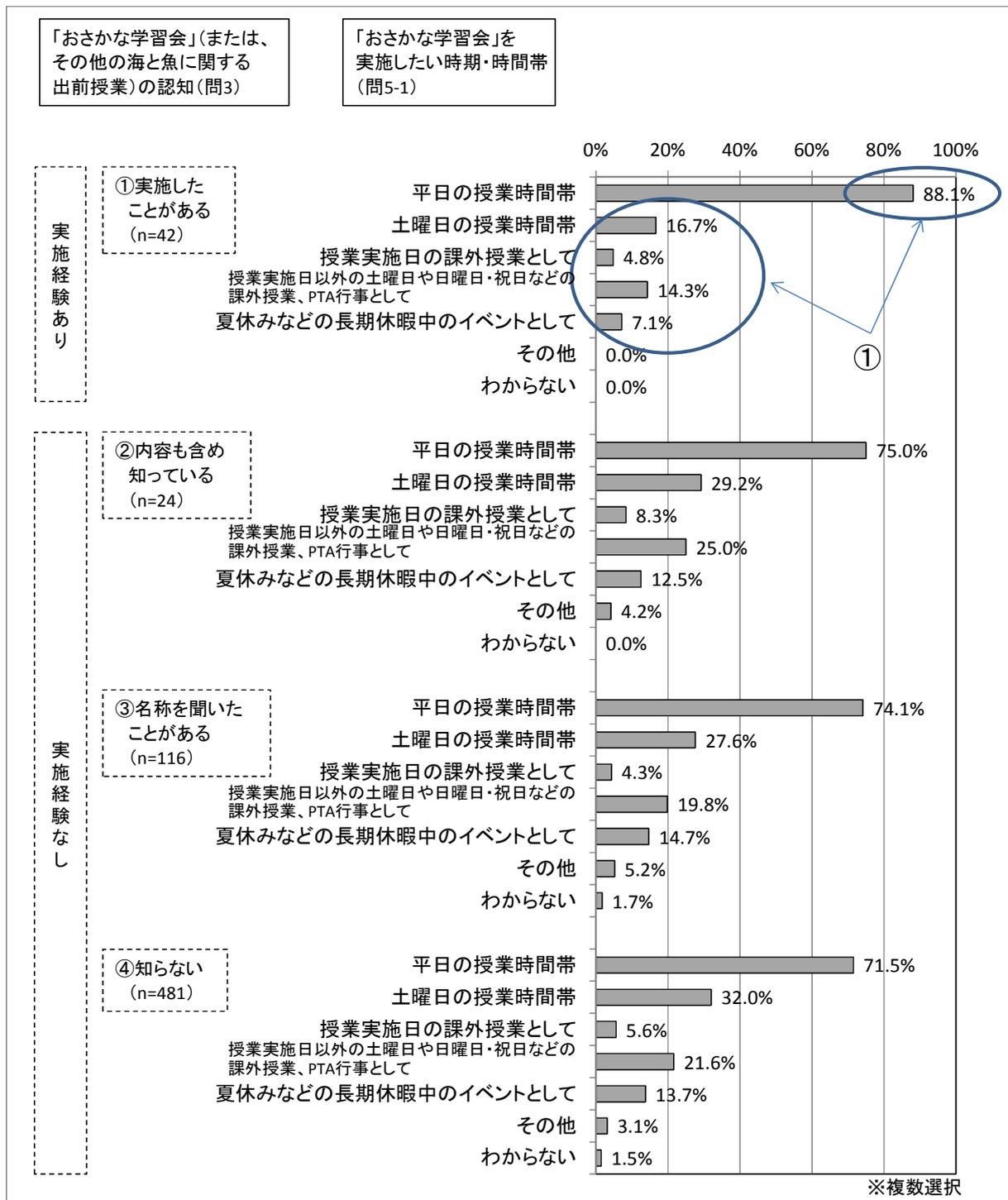


図 28 【問3・問5-1】「おさかな学習会」の認知度別実施したい時期・時間帯

表 9 【問5-1】「その他」の自由記述の内容

内容	回答
授業参観・学校公開等で (8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観で親子で活動する。 ・ 授業参観、オープンスクールの時 ・ 土曜公開授業として ・ 学校公開時に、地域に向けてを含み。 など
親子行事・PTA 関連行事として(7件・重複あり)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子親睦会として ・ PTAとの合同活動の中で など
校外学習等またはその事前学習として(5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年生の磯観察前の事前学習で(5月) ・ 6年の佐渡自然教室でのコース別体験学習(いか裂き、水族館) ・ 4年の宿泊学習の事前学習ならできるかも。 (本年度は終了7/8-10実施済) など
放課後(3件・重複あり)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後子ども教室 ・ アフタースクールのイベントとして(平日) など
その他(1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジスクールの活動内容として

4.3.5 「おさかな学習会」を実施したい学年（問5－2）

- 「全学年で実施したい」との回答が 22.3%、「特定の学年で実施したい」との回答が 77.1%であった。（図 29）
 - 児童の発達段階等を踏まえると、全学年を対象にするのは困難、あるいは、全校イベントにするには、カリキュラム・その他の調整が困難でハードルが高いという認識の表れと考えられる。
- 「おさかな学習会」の認知度別に実施したい学年をみると、「おさかな学習会」を実施したことがあると回答した学校では、「全学年で実施したい」が 31.0%となっており、回答した学校全体を 8.7%上回っている。（図 30）
 - 「おさかな学習会」を実施した学校では、実施前に比べ、学年を問わず教育効果があると感じるケースがあるものと推測される。
- 「特定の学年で実施したい」とした場合、学年が上がるほど実施意向が上がり、「5 年生」での実施意向が最も高くなる。（図 31）
 - 5 年生の社会科において水産業の学習が盛り込まれていることが要因と考えられる。そのため、高学年での教育効果が高いとの認識が高いものと考えられるが、6 年生については、スケジュール等、教育効果以外の理由により、5 年生よりも実施意向が低いのではないかと推測される。

問5－2	<p>「おさかな学習会」を実施するとしたら、どの学年で実施したいと思いますか？あてはまるものを1つ選んでください。</p> <p>①全学年で実施したい ②特定の学年で実施したい ⇒該当する学年に○をつけてください。</p> <p>1 年生 2 年生 3 年生 4 年生 5 年生 6 年生</p>
------	--

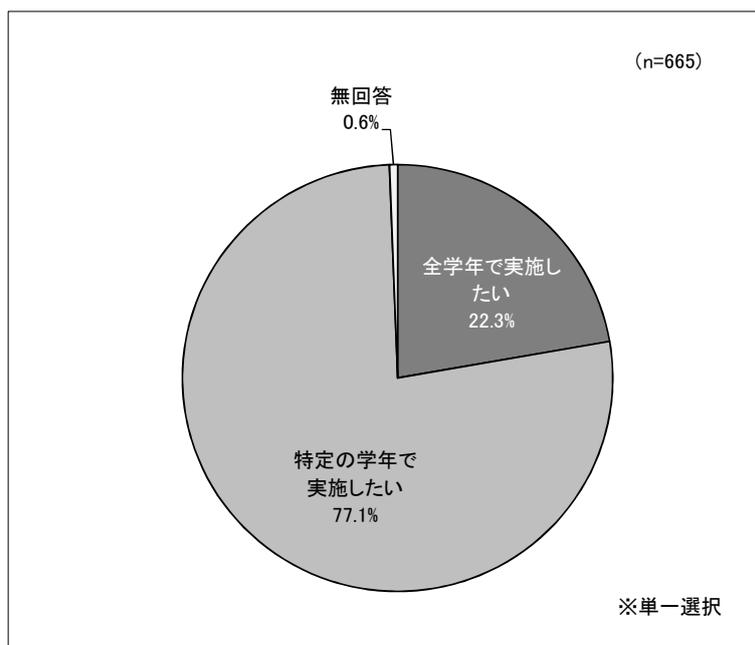


図 29 【問5－2】「おさかな学習会」を実施したい学年

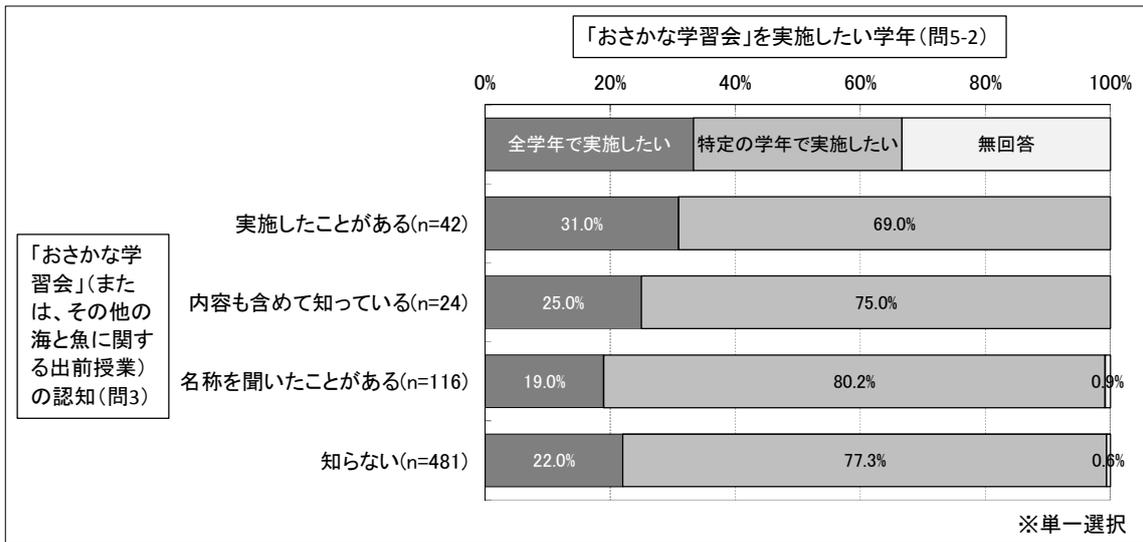


図 30 【問3・問5-2】「おさかな学習会」の認知度別実施したい学年

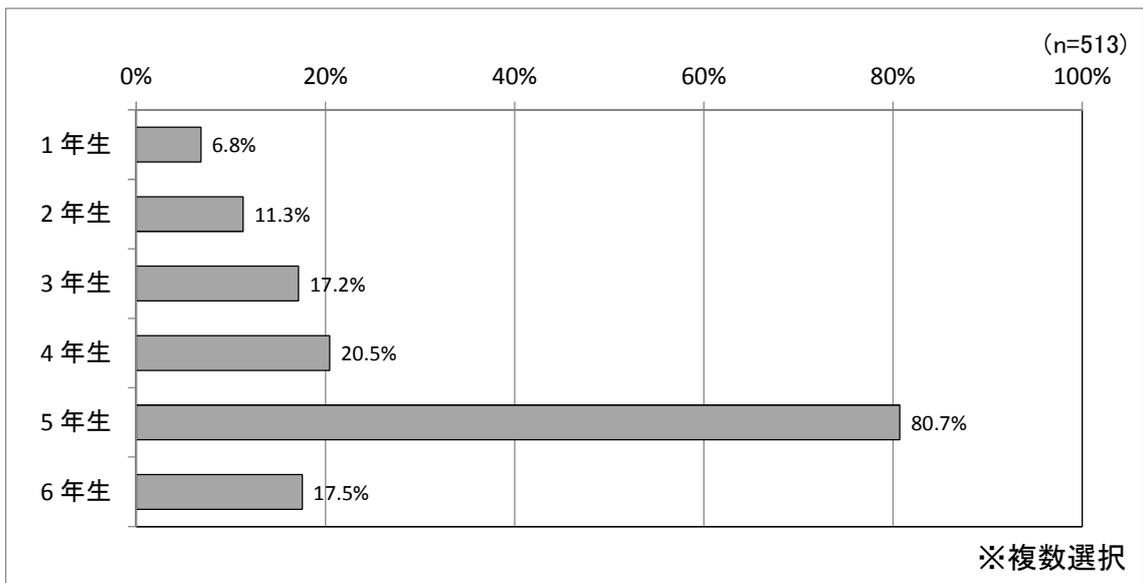


図 31 【問5-2】「おさかな学習会」を実施したい学年(特定の学年で実施したい場合)

表 10 【問5-3】「その他」の自由記述の内容

内容	回答
現在の取り組み・他の取り組みで足りる(11件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在行っている授業・行事で目標が達成できると考える ・ 水族館へ行ったり料理教室へ行ったりと、どうしてもという場合は対応できるので ・ 現在、水産会社の協力で、食育とからめて実施しているため、新たな取り組みではなく継続していきたい ・ 本校時の総合学習では、田や畑を中心に学んでいるから ・ 川の生き物について学習している。 ・ 身近な浜名湖を教材として、学習している。今後もその予定である。 ・ 教科書を中心とした学習で十分だと考える。 など
学校の環境上実施が困難(2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設内学校のため、外との交流が難しい！ ・ 入院中の児童生徒のため(学校が病院内にあるため)
その他(9件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ○○教育というものが、現在30以上もある。学校の特色を考え重点教育を精選していかなければならない。 ・ 海洋教育に関する職員研修を優先して考えるため ・ アレルギー問題 ・ 津波被災児童がいる。 ・ ねらいがいまひとつよく分からないので。 ・ 授業として扱うだけの教材としての価値を感じません。 など

4.3.7 体験学習としての「おさかな学習会」の位置づけに関する分析

本項では、ここまでの分析及び追加の分析を踏まえ、海洋・水産教育における体験学習としての「おさかな学習会」について、学校側のニーズ等を踏まえ、今後の方向性や課題を整理する。

(1) 自由記述意見（問11）からみた「おさかな学習会」の位置づけ

図33は、問11の自由記述欄における「海洋・水産教育」、「おさかな学習会」、「〇〇教育」のいずれかに関する意見の記載状況を、「おさかな学習会」の認知度（問3）及び実施意向（問5）の回答内容別に示したものである。問3で「おさかな学習会」を「実施したことがある」とした回答のうち、問5の実施意向について、「具体的に内容を知りたい」、「実施したいとは思わない」、または「わからない」とした回答では、問11の自由記述欄に記載のある回答はなかった。

		「おさかな学習会」の実施意向(問5)			
		実施したい	具体的に内容を知りたい	実施したいとは思わない	わからない
「おさかな学習会」の認知度(問3)	実施したことがある	【Aグループ】 11件	—	—	—
	内容も含めて知っている 聞いたことがある	【Bグループ】 8件	【Cグループ】 16件	【Dグループ】 2件	【Eグループ】 2件
	知らない	【Fグループ】 12件	【Gグループ】 29件	【Hグループ】 7件	【Iグループ】 12件



「おさかな学習会」に
肯定的な層



「おさかな学習会」に
否定的な層

図33 「おさかな学習会」の認知度（問3）・実施意向（問5）別自由記述（問11）の記入状況

自由記述回答の分析からは以下のようなことがいえる。枠線内では、具体的な自由記述の例を示す。なお、各回答グループの自由記述の内容・傾向の詳細については、表 11 に示す。

- 【A グループ】（「おさかな学習会」を実施したことがあり、かつ「実施したい」）では、「おさかな学習会」を有意義な活動と認識し、高く評価している。

・ 本年度おさかな学習会を実施したところ、子供たちが大変意欲的に学習に取り組み、興味、関心が高まったようでした。机上の学習ではなく、体験を通して学ぶ意義を痛感しました。今後も継続して取り組んでいく予定です。

・ おさかな学習会は、とても子供が喜んでいました。カツオの 1 本釣りでは、こんなにカツオが重いと驚いていました。食べることについても学べ、生命を生べて生きているので、食べ物の大切さを学ぶことができました。ありがとうございました。

- 【B・C グループ】（「おさかな学習会」の認知があり、かつ、多少なりとも実施意向を有する）は、海洋・水産教育あるいは体験型授業への理解・関心が比較的高い。ただし、時間的な余裕のなさ・教員の知識のなさから、実際の取り組みに繋げにくいという課題を有する。

・ 食事で食べている魚の丸ごとの形を認識していない児童が増えている。食育の面においても、漁業を理解する上でも海と魚に関する教育は必要であり、体験型授業は、小学校においては価値ある活動であると思う。課題は経費と人材と時間をいかにうまく出すかにある。

・ 日本を理解するにあたり、海洋教育は切っても切れないものと考えます。子どもたちにそのことを教え導く教師が、その必要性を実感することも必要だと思えます。各自治体や教育委員会を通じて、教師への研修会なども行うとよいのではないのでしょうか（おそらくされていると思いますが…）。実際に子どもたちが触れて体験し、味わう学習の機会を学校としてもつくっていきたいと思えます。

- 【D グループ】（「おさかな学習会」の認知はあるが、実施は否定）は、海洋・水産教育自体は否定していないが、実施形態・内容面を理由に「おさかな学習会」の利用については否定している。

- 現在の「おさかな学習会」の実施形態では、学校への出前授業として活用を期待するのは困難と考えられる層。海洋・水産教育の推進や体験学習を通じた児童の育成の観点からは、将来的な課題として、学校以外の場での活動（地域のイベントへの参加、独自イベントの開催）を行うことで、幅広い理解を得られる可能性がある。

・ 本校は病気で入院中の子どものための学校であるため、常に衛生面に気を使う必要があり、実際の生物に触れさせたり、病院食以外のものを食べさせたりできない環境にある。「おさかなゼミ」のような、PCを使った講座なら可能ではないかと思えます。

・ 有益な教育はいろいろありますが、だからといって、〇〇教育と銘うって学校現場におろされても、なかなか教育課程に組み入れることが難しいことが多く、苦慮しています。むしろ、食生活の要である家庭の啓発に社会全体で取り組んでいただきたいと思えます。

- 【F～I グループ】（「おさかな学習会」を「知らない」）では、いずれのグループも共通して、学校の教育課程における海洋・水産教育の位置づけが不明瞭で、どのように取り組めばよいか分からないとする意見がみられる。また、【F～I グループ】では、図 33 の中で左側に位置するグループ（実施意向が強いグループ）ほど海洋・水産教育への理解やその重要性に対する認識が高く、右側に位置する【H・I グループ】では、そもそも海洋・水産教育の重要性が分からないとする意見がみられる。

➤ **「おさかな学習会」の実施によって発現が期待される教科学習への効果・好影響を示すことにより、学校として利用しやすくなると考えられる。また、海を題材とすることによって得られる教育効果の明確化やアピールが必要。**

- ・ 具体的な学年、単元での実施というように提案してくださいと、対象学年で検討しやすいです。
- ・ 私は、海水から塩を取り出す（5年）、下水処理の仕組み（6年）については、出前授業を依頼しています。海洋教育の重要性がわかれば、検討したいと思います。
- ・ 海だからこそという価値が明確であれば、もっと浸透するのではないのでしょうか。熊本は水俣病というつらい体験があり、公害を通した海を通した環境教育にずっととりこんでおります。同時に差別と戦って来た歴史を学び、正しい人権感覚を育てることを目指しています。

- 【F・G グループ】では、海洋・水産教育について関心はあっても、海が近くにない等の地理的条件から海洋・水産教育を実施したくても実施できないとする意見がある一方、同様の条件から、海洋・水産教育に必要性を感じないとする意見もみられる。

➤ **普段、海との関わりが少なく、海に対する関心・理解の低い地域ほど、得られる教育効果は大きいはずである。魚食文化等、海のない地域でもなじみやすいテーマを切り口に、出前授業の強みを生かした活動を行うことが期待される。**

- ・ 子どもたちは海が大好きです。しかしながら立地上、海と縁がない子どもも多くいます。社会科の中で日本は海に囲まれていること、豊富な魚類と漁業により魚を食べることのできること、環境（さんごの死括問題）についてなどを学んでいます。
- ・ 海に行ける機会がないので、何らかの形で出前授業等の機会があり、海洋や魚についての学習ができるとよいと思った。埼玉県は、海はないが、淡水面が他県に比して広いので、川の魚などについての理解を深めても良いと思った。
- ・ 海なし県（埼玉）なので、往復時間を考えただけで、おそらく実施は無理。特に学校の教育計画には予定されていない内容なので、やってみたい思いはあるが、実際にやる場合の、目的や必要性がない。あれもこれもやれば面白いでしょうが、本当では、やることはないと思われる。

表 11 「おさかな学習会」の認知度・実施意向別自由記述の内容・傾向

	実施したい	具体的に内容を知りたい	実施したいとは思わない	わからない
実施したことがある	<p>【Aグループ】 「おさかな学習会」をやったよかったとの意見が大半。 「おさかな学習会」への提案としては、「教師も共に学べる活動ができればよいと思う」、「漁師さんが学校に来て話をしてくれるくらいのもでも有効」といった意見があった。</p>			
内容も含めて知っている・聞いたことがある	<p>【Bグループ】 体験型授業の重要性への理解を示す意見や、自校で実施している海洋・水産教育の内容を具体的に記載した意見が半数以上を占めた。 「おさかな学習会」への提案として、教育課程消化への影響を避けるため、長期休業中の実施を希望するものや依頼のしやすさを求める意見があった。</p>	<p>【Cグループ】 「おさかな学習会」のプログラム・申込み方法等を詳しく知りたいとの意見が約3分の1を占めた。 そのほかの意見では、海洋・水産教育の重要性への理解や興味・関心を示す一方、教員の知識不足・ゆとりのなさを指摘する意見が多い。「おさかな学習会」への提案としても、教師への研修の実施を求める意見があった。</p>	<p>【Dグループ】 海洋・水産教育の有益性を認める一方で、教育課程への組み込みが困難であるとして、家庭での啓発に取り組んでほしいとの認識を示す意見と、環境(院内学級)を理由に体験型の学習は不可能だが、座学形式の講座なら可能とする意見があった。</p>	<p>【Eグループ】 自校で実施している海洋・水産教育の内容を記載した意見と、海に関する学習を行いたいとしつつ、学習に適した施設がないとする意見があった。</p>
知らない	<p>【Fグループ】 海に近い国家であるにも関わらず、海洋・水産教育が不足している、あるいは位置づけが不明確・よく分からないといった意見が3分の1あった。 一方で、「機会があれば」実施したい、時間の確保が難しいといった意見も約3分の1あったほか、海に近くない(あるいは近いが汚い)といった意見もあった。</p>	<p>【Gグループ】 3分の1程度の意見に「海が近くにない」・「山間地域の所在」といった記載があった。 海が身近でないと考えられる意見では、海について学ぶ機会を設けたいという意見と必要性を感じない・理解を得られないといった意見が半々となっているほか、費用面を課題とする意見も多い。 そのほかの意見では、教育課程の中での位置づけを明確にしてほしいとの意見や、教科書の学習内容に沿ったものであれば実施したいとの意見が多い。</p>	<p>【Hグループ】 海洋・水産教育に関心・理解を示す意見もある一方、「海洋教育の重要性が分かれば、検討」、「教科の中でどのように組み入れるかを計画するのが難しい」、「学校のカリキュラムの側から取り組むべきことを整理したい」等、そもそも海洋・水産教育の必要性・優先度に疑問を呈する意見もあった。</p>	<p>【Iグループ】 「おさかな学習会」の実施や海洋・水産教育の実施を困難とする意見が半数を占め、カリキュラムへの位置づけや経費・日程・人員の確保等の条件面を課題とする意見が多い。「おさかな学習会」への提案においても、具体的な教科・教育課程とのリンク付けを求めるものが多い。また、「海だからこそという価値が明確であれば、もっと浸透する」との意見もあった。</p>

(2) 海と魚に関わる体験学習実施上の課題から見た「おさかな学習会」への期待

4.3.6において調査結果を示した問5-3においては、「おさかな学習会」を「実施したいとは思わない」と回答した学校のみ「おさかな学習会」を実施する上での課題を調査している。そのため、「おさかな学習会」の実施意向がある層やわからないとする層についての課題は問5-3の結果からは把握することができない。

そのため本項では、問5の「おさかな学習会」の実施意向別に、海と魚に関わる体験学習の実施における課題認識(問7・問10)を分析し、「おさかな学習会」に求められている事項を検討する。

海と魚に関わる体験学習実施における課題認識の分析からは、以下のようなことがいえる。

- 「おさかな学習会」について実施意向がある層では、訪問・見学型授業の実施、体験型授業実施のいずれについても、「海辺・水辺、施設が近くにない」ことを課題として選択している比率が他の層に比べて高い。(図34の①、図35の①)
 - **出前授業であることにより、海辺・水辺等に赴かなくても海や魚を感じる体験ができる点が「おさかな学習会」活用の上での重要なポイントとなっている可能性がある。**
- また、実施意向がある層では、体験型授業に関し、「教員自身に知識がない」ことを課題として選択している比率も他の層に比べて高い。(図35の②)
 - **専門家による授業である点が「おさかな学習会」活用の上でのポイントとなっていると考えられる。また、「おさかな学習会」の実施意向がある層は、基本的に教員自身の海洋・水産教育や体験学習に対する意識・意欲も高い可能性がある。教員にとっても知識を得られるプログラムの提供が、「おさかな学習会」自体の利用促進や海洋・水産教育の推進につながる可能性がある。**
- 「おさかな学習会」について「実施したいとは思わない」層では、訪問・見学型授業の実施、体験型授業実施のいずれについても、「経費の負担が大きい」ことを課題として選択している比率が他の層に比べて比較的低い。一方で、訪問・見学型授業については、「時間を生み出せない」を選択している比率が他の層に比べて高い。(図34の②、図35の③)
 - **「おさかな学習会」について実施意向のない層では、費用は体験学習実施を決定する上での重視項目ではない可能性がある。一方、時間的制約を重視する傾向があるとみられることから、海洋・水産教育の重要性や「おさかな学習会」実施により得られる効果等、学校において取り上げる(時間を確保する)べき意義を明確にし、示していくことが海洋・水産教育の推進、体験学習の促進、「おさかな学習会」自体の利用促進につながる可能性がある。**
- 「おさかな学習会」について「わからない」とする層では、訪問・見学型授業の実施、体験型授業実施のいずれについても、「安全性に不安がある」ことを課題として選択している比率が他の層に比べて比較的高い。(図34の③、図35の④)
 - **「おさかな学習会」の実施について「わからない」とする層は、体験学習における安全性を重視する傾向があるとみられる。この点、出前授業であり校内での実施が可能なこと、専門家による授業であることなどは安全性の高さにつながるものと考えられ、「おさかな学習会」の特長と考えられる。**

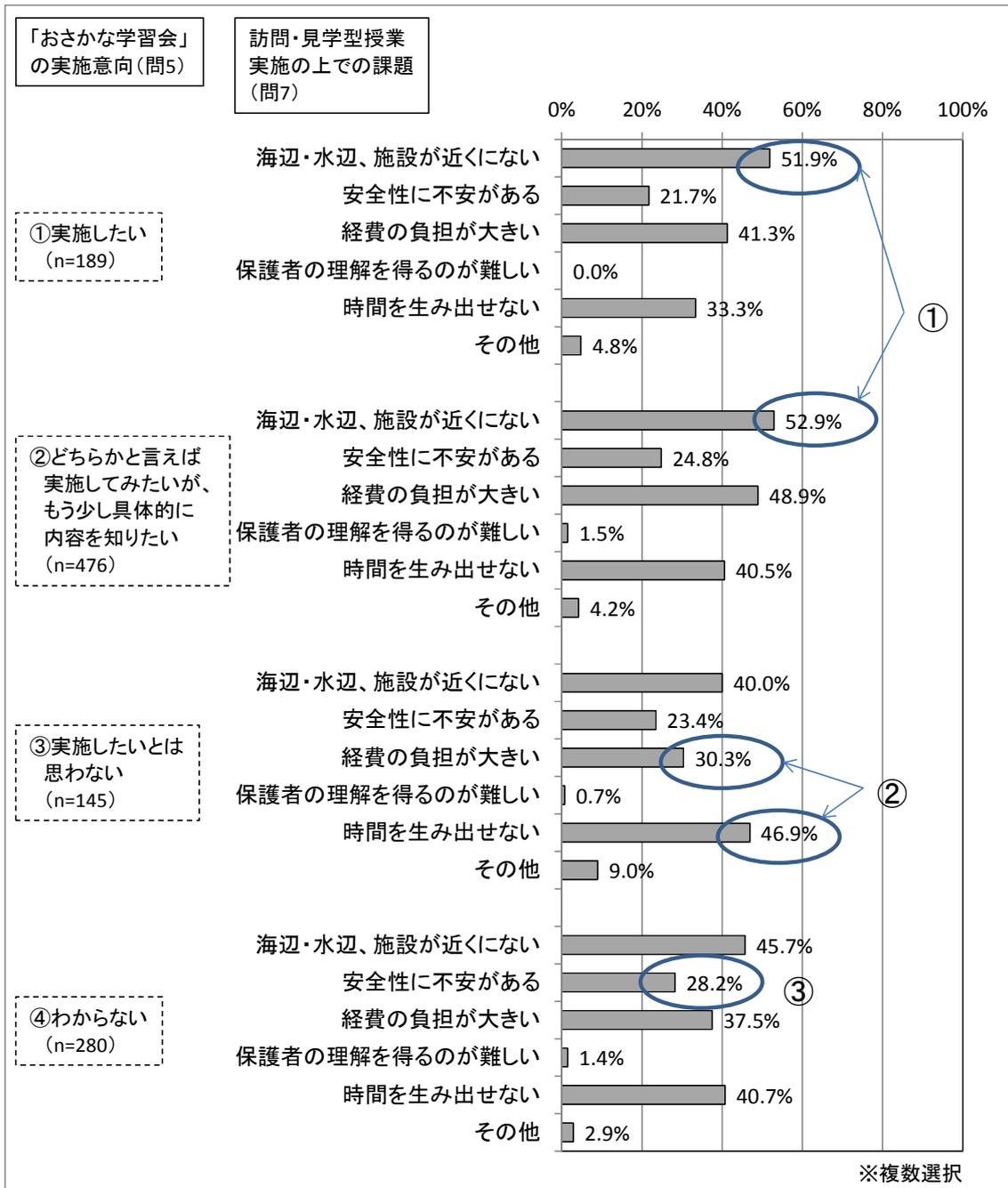


図 34 【問5・問7】「おさかな学習会」の実施意向別
訪問・見学型授業実施の上での課題認識

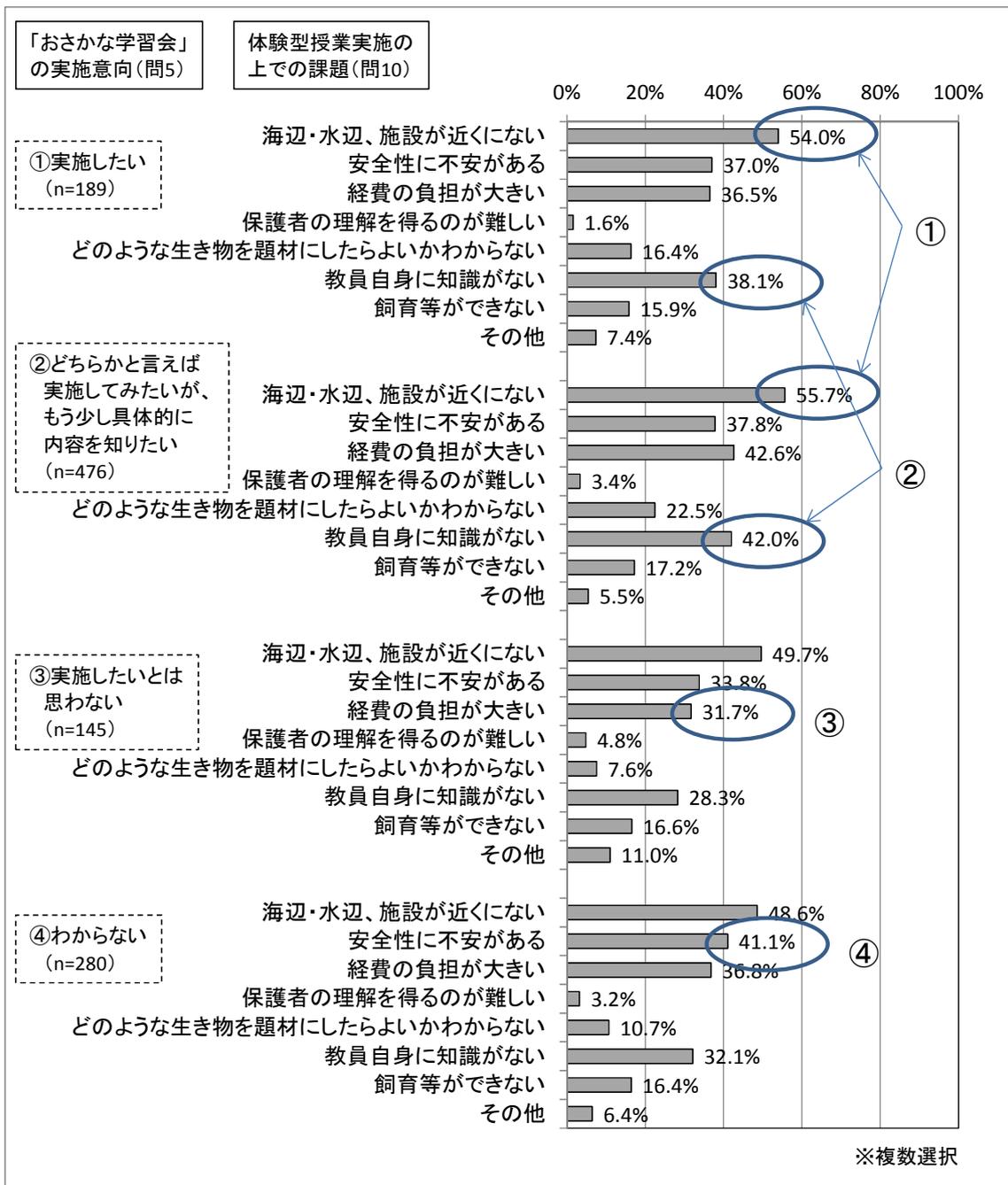


図 35 【問5・問10】「おさかな学習会」の実施意向別
体験型授業実施の上での課題認識

参考資料

参考資料（1） 調査票

参考資料（2） 自由記述回答

設問の該当番号に○を付け、必要事項を記入してください。

1 / 4 頁

貴校についてお尋ねします。

問 1 貴校の所在地をお選びください。

- | | | |
|-------|------|------|
| ①北海道 | ②宮城県 | ③東京都 |
| ④神奈川県 | ⑤埼玉県 | ⑥千葉県 |
| ⑦新潟県 | ⑧静岡県 | ⑨愛知県 |
| ⑩京都府 | ⑪大阪府 | ⑫兵庫県 |
| ⑬岡山県 | ⑭広島県 | ⑮福岡県 |
| ⑯熊本県 | | |

■海洋教育への取り組みについてお伺いします。

海洋教育は、海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進する教育で、海洋に関する理解の増進を目的としています。海洋基本法（平成 19 年制定）の第 28 条では、学校教育や社会教育などでの海洋に関する教育の推進を明記しています。

問 2 海に関する教育や活動について、どのように実施していますか？
あてはまるものを 1 つ選んでください。

- ① 教科書に載っている範囲で海について学習している
(社会科での国土に関する学習・漁業に関する学習、理科での気候に関する学習など)
- ② 地域に関する学習（産業・風土・文化など）として海についての学習を行っている
- ③ 総合的な学習の時間などで海について学習している
- ④ 課外授業として海について学習する機会を設けている
- ⑤ その他（具体的に： _____)
- ⑥ 海について取り上げることはない

問 2-1 【問 2 で 1～5 のいずれかを選択された方（海に関する何らかの教育や活動を実施されている方）に伺います。
子どもたちの反応・教育上の効果はいかがですか？
あてはまるものを全て選んでください。（複数回答可）

- | | |
|------------------------|-------------------|
| ①海の生き物・生態系に関心を持つようになった | ②漁業・水産業への理解が深まった |
| ③魚や水産物などを食べるようになった | ④環境問題に関心を持つようになった |
| ⑤外国への関心を持つようになった | ⑥自国への理解が深まった |
| ⑦海そのものについて関心が高まった | |
| ⑧その他（具体的に： _____) | |

■海と魚について体験学習を行う「おさかな学習会」という取り組みがあります。

「おさかな学習会」は、海と魚に関する地元の専門家による出前授業で、無料で実施されています。この取り組みについて伺います。

問 3 「おさかな学習会」という取り組み（または、その他の海と魚に関する出前授業）をご存知ですか？あてはまるものを 1 つ選んでください。

- | | |
|--------------|--------------|
| ①実施したことがある | ②内容も含めて知っている |
| ③名称を聞いたことがある | ④知らない |

問 4 「おさかな学習会」では、以下のようなプログラムを実施しています。
貴校の子どもたちに体験させたいと思うものを全て選んでください。（複数回答可）

- ① おさかなゼミ
(パワーポイントや動画、クイズなどで分かりやすく「海と魚」について勉強します。本物の漁具や魚の骨などにも触れます。)
- ② 模擬漁体験
(「カツオの一本釣り」や「投網」などを自分で実際にやってみます。カツオの模型は本物と同じような重さです。)
- ③ タッチプール
(いろいろな生きた魚を自分の手で触って生き物の感触を確かめます。)
- ④ 鮮魚タッチ
(魚市場より仕入れた鮮魚に自分の手で触って魚の感触を確かめます。)
- ⑤ 料理教室
(保護者や子供たちに 3 枚卸など魚料理を教えます。)

問 5 今後機会があれば、「おさかな学習会」を貴校で実施してみたいと思いますか？
あてはまるものを 1 つ選んでください。

- ① 実施したいと思う
- ② どちらかと言えば実施してみたいが、もう少し具体的に内容を知りたい
- ③ 実施したいとは思わない
- ④ わからない

問 5-1 【問 5 で「1.実施したいと思う」「2.どちらかと言えば実施してみたいが、もう少し具体的に内容を知りたい」とご回答の方に伺います。】
「おさかな学習会」を実施するとしたら、どの時間を活用したいと思いますか？
あてはまるものを全て選んでください。（複数回答可）

- ① 平日の授業時間帯
- ② 土曜日の授業時間帯
- ③ 授業実施日の課外授業として
- ④ 授業実施日以外の土曜日や日曜日・祝日などの課外授業、PTA 行事として
- ⑤ 夏休みなどの長期休暇中のイベントとして
- ⑥ その他（具体的に： _____)
- ⑦ わからない

問 5-2 「おさかな学習会」を実施するとしたら、どの学年で実施したいと思いますか？
あてはまるものを 1 つ選んでください。

- ① 全学年で実施したい
- ② 特定の学年で実施したい⇒該当する学年に○をつけてください。

1 年生	2 年生	3 年生
4 年生	5 年生	6 年生

問 5-3 【問 5 で「3.実施したいとは思わない」とご回答の方に伺います。】
 「おさかな学習会」を貴校で実施する場合、どのような課題がありますか？
 あてはまるものを全て選んでください。（複数回答可）

- ① 授業や既存の行事で埋まっており、実施する時間が取れない
- ② 準備を行うための教員の時間が取れない
- ③ 依頼の方法が分からない
- ④ 安全面で不安を感じる
- ⑤ 保護者の理解を得るのが難しい
- ⑥ その他（具体的に： _____)

■海と魚に関わる体験学習への取り組みについて伺います。

問 6 貴校では、体験学習の一環として、海辺・水辺、または施設等を訪れる（訪問・見学型）授業を実施していますか？
 現在の勤務校について分かる範囲で、あてはまるものを 1 つ選んでください。

- ① 実施している
- ② 過去に実施したことがある
- ③ 実施したことはない
- ④ わからない

問 6-1 【問 6 で「1.実施している」「2.過去に実施したことがある」とご回答の方に伺います。】
 訪れたことのある施設等を全て選んでください。（複数回答可）

- ① 漁港・漁船
- ② 水産物卸売市場
- ③ 水産加工会社
- ④ 水族館
- ⑤ 鮮魚店等の商店
- ⑥ 海浜公園・親水公園
- ⑦ その他（具体的に： _____)

問 7 海辺・水辺、または施設等を訪れる（訪問・見学型）授業を実施する上での
 課題は何ですか？あてはまるものを全て選んでください。（複数回答可）

- ① 海辺・水辺、施設が近くでない
- ② 安全性に不安がある
- ③ 経費の負担が大きい
- ④ 保護者の理解を得るのが難しい
- ⑤ 時間を生み出せない
- ⑥ その他（具体的に： _____)

問 8 貴校では、体験学習の一環として、水辺の生物に触れる・食す授業を実施していますか？
 現在の勤務校について分かる範囲で、あてはまるものを 1 つ選んでください。

- ① 実施している
- ② 過去に実施したことがある
- ③ 実施したことはない
- ④ わからない

問 9 魚に関する食育を実施したことがありますか？また、どのような取り組みですか？
あてはまるものを全て選んでください。（複数回答可）

- ① 魚の産地の学習
- ② 昔と今の魚食の変化についての学習
- ③ 魚特有の栄養についての学習
- ④ 和食、郷土料理についての学習
- ⑤ 魚の食べ方の学習
- ⑥ 魚の鮮度から選び方などの学習
- ⑦ その他（具体的に： _____)

問 10 水辺の生物に触れる・食す授業を実施する上での課題は何ですか？
あてはまるものを全て選んでください。（複数回答可）

- ① 海辺・水辺、施設が近くにない
- ② 安全性に不安がある
- ③ 経費の負担が大きい
- ④ 保護者の理解を得るのが難しい
- ⑤ どのような生き物を題材にしたらよいかわからない
- ⑥ 教員自身に知識がない
- ⑦ 飼育等ができない
- ⑧ その他（具体的に： _____)

問 11 海洋教育、おさかな学習会、体験学習等、本アンケートの調査内容に関して、ご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にご記入ください。

以上でアンケートは終了です。ご協力いただき、ありがとうございました。
ご多忙の中恐縮ですが、同封の返信用封筒でご送付いただくか、
ファクシミリ（ファクシミリ番号：03-5510-7802）でご返送ください。

日本教育新聞社 企画調査室

（２）自由記述回答

問 1 1（ご意見・ご要望等）の記載内容は以下の通り。

内容	回答
実施している・興味がある等 (19件)	<p>海洋・水産教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 離島の学校という、環境に恵まれた中、スナメリを見つけに行ったり、魚つり大会をして、それを調理し、食べる取り組みをしています。地域の方々や環境を大切に子どもたちを育てるため学習をさらに深めていきたいところです。 ・ 海洋教育という形ではなく、生活科や社会科等の教科の中で、海や魚、生物について学習しています。本校は海に近い場所に立地しており、このような学習を進めていければよいと改めて感じました。 ・ 修学旅行で伊勢志摩の海へ行き、海辺の活動や生物に出会っています。3年生では海遊館という水族館です。いずれも管理された空間です。実は大桐小は淀川の川辺にある学校で、歴史的には平田の渡しなど、川にちなんだ暮らしがありました。再び、この水辺や水の生物の理解を深め、自然界とのつながりを再認識しなければならぬと考えています。地域の祭りの再現の中で、川での船レースや催しを考えています。 ・ 食事で食べている魚の丸ごとの形を認識していない児童が増えている。食育の面においても、漁業を理解する上でも海と魚に関する教育は必要であり、体験型授業は、小学校においては価値ある活動であると思う。課題は経費と人材と時間をいかにうみ出すかにある。 ・ 北区では千葉の岩井に4年生、5年生が移動教室で出かけます。その際に魚についての体験学習を行っていますが日常的には、実施していません。 ・ 主に5年生の理科「メダカ」や社会「水産業」。6年生の南房総市への民宿泊を通し、鯨の解体やウミホタルの生態について又、水産研究所、養殖場の見学、館山水族館で生きものに触れるなど、多くの体験をしています。自然の家(大房岬の自然についてスライドで学習しました。) ・ 本校では、環境学習として、川の生き物(魚)調べ、や環境を守る学習をしています。この学習を続けていきたいと考えています。 ・ ビオトープで水辺の生物のかかわりは行っている。 ・ 本校ではビオトープを使い水辺の生き物の学習を低学年の生活科、中学年の理科、総合の学習の時間で実施している。 ・ 海なし埼玉では、野菜に関する食育の取組は充実している。反面、魚は川魚(うなぎ)くらいの扱いはある程度である。 ・ 学校の所在地は、山の上であり、食育と魚よりは、野菜との結びつきが自然です。 ・ 多摩川に近い学校なので、河川を学習材にしていますが、海の方には、目を向けていません。申し訳ありません。 ・ 子どもたちは海が大好きです。しかしながら立地上、海と縁がない子どもも多くいます。社会科の中で日本は海に囲まれていること、豊富な魚類と漁業により魚を食べることのできること、環境(さんごの死括問題)についてなどを学んでいます。 ・ 個人的には、海洋開発等に関する学習も小学校で行っていきたく思っている。 ・ 島国、日本の義務教育に、海洋教育がしっかり位置づけられていないことに、ずっと不満をもっていました。逆に協力できることは、教えていただければと思います。 ・ 島国日本に住む我々日本人は、海について学んだり、体験したりすることはとても大切だと思います。 ・ 海洋国家というわりには海から程遠い日常生活です。海を身近に感じられる教材と広まりを期待しています。 ・ 日本は、生来海洋国として発展してきました。その日本が、海洋教育を行わなくなれ

内容	回答
<p>実施は困難・分らない等 (20件)</p>	<p>ば、それは発展が途切れてしまうことにつながります。都会のど真中でも行える、海洋教育、それが望まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無理のない範囲で取り組んでいきたい。 ・ 大切な学習であると思うが、時間等のゆとりがないのが現況です。 ・ 海に比較的近い学校ですが、海に関する学習は少ないと思います。多くの時間をさいて取り組みたいのですが、他にもやりなさいと上から言われているものが多く、十分な時間をとれないでいます。 ・ 現在、学校教育の中に、様々な分野・領域が入っており、海洋教育等に関する体験及び学習を行う、時間的余裕がないのが本音である。 ・ 漁港が近くにあり、環境教育で扱っています。食に関してや生態に関しては、取り扱ったことはありません。興味はありますが、なかなか時間を作り出すのは難しいです。 ・ 魚に関しては、5年の社会の水産業で扱うのみになっています。あとは、給食でも魚ぎらいの子も少しずつふえているので、よいとくみとは思いますが、どこかにカリキュラムをくむじかんをとることができません。 ・ 他校ですが、サケフレークづくりを羅臼の漁師さんの協力を得て行ったことがあります。カリキュラムに位置づける難しさがあります。地域性、によるところが大きいと思います。 ・ 日本の食糧自給率や食生活の点からみて、大切な学習と思いますが、教科学習で実施するのが精一杯です。 ・ 体験学習など大変興味深いものですが現状として、授業時間が限られている点や、新しいことに取り組む場合には、それをリードしてもらえる専門的人材がいないと、なかなか導入は難しいです。 ・ 先生方の知識、理解に大きな差があるので、なかなか継続した学習を展開していくことが難しいです。 ・ 海に関する学習を展開したいと考えるが、学習内容に適した施設が整っていない。小学生(1学年100~130人)程の集団で、見学や体験となると、限られてしまい学習の展開に難しい面がある。 ・ 海の近くの学校がうらやましいです。大阪では、海が近くにあっても、水が汚いです。 ・ 山間地域の学校なので、子どもたちに海の体験をぜひさせたいが、それにかかる経費の面でむずかしい。 ・ 山に囲まれた学校なので海の体験は貴重。近年の交通費(バス代)の値上がり等もあり、こちらから海に出向く機会に限られる。近年、山で魚を養殖する等の技術革新もあり機会があれば学ばせたいと思っている ・ 埼玉県は、海がない県であり、川辺の学習を行っている。「海」に関する直接体験は困難な状況である。 ・ 埼玉でその必要性について理解を得ることはなかなかハードルが高いように思います。 ・ 海辺、水辺が近くにはないのはかなりハンディかなと思いました。 ・ 魚を食する活動は、アレルギー、放射能、衛生面の観点から、一部の保護者の理解を得られない事態が予想される。 ・ 海はとても近い学校ですが、3.11以来、気軽に海辺の学習はできなくなりました。漁港ではないので、魚に関する学習につなげることも難しいです。 ・ 5年前までは夏の自然学校(宿泊体験)を海のそばで行っていましたが、東日本大地震の影響で山へと開催場所を移しました。もうそろそろ、海の開催へともどしたいと考えているところです。 ・ 海洋教育というものの具体的な取り組み、その成果について十分に理解できていません。

内容	回答
おさかな学習会について	
実施して良かった(8件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度おさかな学習会を大日本水産会の方々に実施して頂き、大好評でした。当日の給食のメニューを魚のフライにする等栄養士ともタイアップして、魚に親しめるよう配慮しました。本当にお世話になりました。いい体験ができました。 ・ おさかな学習会は、子どもたちにとって初めて知ること、初めて経験することが多く、とてもいい学習になった。特に、生きた魚などに触れることは貴重な体験であった。 ・ おさかな学習会は、とても子供が喜んでいました。カツオの1本釣りでは、こんなにカツオが重いと驚いていました。食べることについても学べ、生命を生べて生きているので、食べ物の大切さを学ぶことができました。ありがとうございました。 ・ 昨年度おさかな学習会を本校で実施しました。大変素晴らしい機会をいただき、感謝しております。また、ぜひお願いしたいです。 ・ おさかな学習会、タッチプールは、以前、実施したことがあり子どもたちにも、保母者にも(料理教室)大好評でした。よい経験だと思います。本校は800名規模の学校なので、タイムスケジュールを組むのが難しくできないかなと思いますが、やるのなら、全学年、参加で行う価値のあるものだと思います。(以前はタッチプールの周りで職員の演奏もし、雰囲気もよい、時間となりました) ・ おさかな教室を毎年実施しています。市内まぐる商の出前です。 ・ おさかな学習会を毎年実施しています。子供たちが魚や漁業について興味をもつ機会になっています。 ・ 本年度おさかな学習会を実施したところ、子供たちが大変意欲的に学習に取り組み、興味、関心が高まったようでした。机上の学習ではなく、体験を通して学ぶ意義を痛感しました。今後も継続して取り組んでいく予定です。
興味・関心がある(11件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海に行ける機会がないので、何らかの形で出前授業等の機会があり、海洋や魚についての学習ができるとよいと思った。埼玉県は、海はないが、淡水面が他県に比して広いので、川の魚などについての理解を深めても良いと思った。 ・ 海や魚の学習を実際に海辺でできたらと思うが、震災以降、安全に不安があり、保護者の理解を得るのは難しい。学校で、出前授業として行っていただくのはとても良い機会だと思う。 ・ 「おさかな学習会」が楽しそうですね。教科書だけの授業になりがちなので(特に水産業は)、こういう体験をすることで、より学習が身近で、より理解できると思います。 ・ 5年社会科の「水産業」の学習に役立つ内容だと思います。このような、視覚的、体験的な学習ができれば、学習に対する関心、意欲の向上につながると思います。問題点は、時間の確保、場合によっては、そのための手続きの煩雑さであると思います。 ・ 時間や経費に問題がなければ、積極的に取り入れたいと思う。 ・ 無料で、しかもこちらの学習内容に沿ったもので出前授業をして頂けるのであれば、興味はあります。 ・ 時季等合えば学習させたい ・ ぜひ、お魚教室、やってみたいです。 ・ 次年度、ぜひ、おさかな学習会を実施したいと思います。よろしく願いいたします。 ・ 魚は子どもが興味あるので、ぜひたくさん扱いたい。 ・ 機会があれば、本校でも取り入れてみたいと思いました。日本は魚のことをよく知っていた方がよいと思います。
詳しく知りたい(13件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 〈海の日〉が施行されて20年を機にタイミングのいいアンケートだと思いました。「おさかな学習会」については、存じあげておりませんでしたので、内容等詳細をお知らせいただけると嬉しいです。 ・ 本校は食育推進校です。おさかな学習会、体験学習の情報がございましたらお知らせいただけますと助かります。よろしく願いします。 ・ お魚マイスターの出張授業を知りたい

内容	回答
	<ul style="list-style-type: none"> ・ おさかな学習会について質問です。「おさかなゼミだけをお願いしたい」ということは、可能でしょうか。本校は、11月12日(土)、学びフェスタと称して、地域の様々な分野の講師を呼び、体験活動をしています。時間にすると、「45分×2」という中ですが、いかがでしょう。 ・ おさかな学習会は、大変興味深い。港を船でまわるツアーに参加しているが、それ以上に子どもたちへのインパクトは強いように思った。時間、経費、等がクリアできれば是非詳しく話をきいてみたいと思った。 ・ 「おさかな学習会」については詳細を知りたいと思いました。 ・ おさかな学習会についての詳細や申し込みはどうすればよいでしょうか？ ・ 私は、海水から塩を取り出す(5年)、下水処理の仕組み(6年)については、出前授業を依頼しています。海洋教育の重要性がわかれば、検討したいと思います。 ・ おさかな学習会に関心があります。資料を送っていただけるとありがたいです。 ・ 体験はさせてみたいが、様々な問題や課題がある。まずは資料のようなものがあれば送っていただきたい。社会科、家庭科、国際理解、食育等、の切り口が魚にはある。 ・ 具体的な活動を進める上で教科の中でどのように組み入れるかを計画するのが難しい状況です。今年度から健康教育についての研究を始めたのでよい資料があれば、見て参考にしてみたいと思います。 ・ おさかな学習会の具体的な情報がほしい。パンフレットなどがあれば送っていただきたい。 ・ おさかな学習会、体験学習等詳しい内容を知りたいと思いました。
<p>実施は困難 (6件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭科の先生や高学年との協議が必要。経費や日程など様々な要素あり検討が必要。 ・ 家庭科の先生や高学年との協議が必要。経費や日程など様々な要素あり、検討が必要 ・ カリキュラムに余裕がないことと、引率や児童管理の人員を確保することが難しいため、実施する予定はありません。 ・ 海なし県(埼玉)なので、往復時間を考えただけで、おそらく実施は無理。特に学校の教育計画には予定されていない内容なので、やってみたい思いはあるが、実際にやる場合の、目的や必要性がない。あれもこれもやれば面白いでしょうが、本当では、やることはないと思われる。 ・ おさかな学習会やってみたいが、他の学習もあり、その時間を確保すること(カリキュラムに入れること)が必要です ・ 本校は在籍学年が1～3年なので学習する場が考えにくい。申し訳ありません。
<p>ご意見・ご要望 (17件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋を切り口とした環境教育などあるが、ともすると、学習のねらいがはっきりしないまま、興味等、おもしろかっただけで学びにつながらない内容で終わってしまうことも懸念される。学習指導要領にあるこの教科とこの内容にリンクするなどといった、学習すべき価値をはっきりさせてもらえるとよい。 ・ 今、学校では〇〇教育が多く、新しい課題、内容として取り入れるのは難しいですが、何かきっかけや関連づけができたときに、こうした学習会を有効に取り入れることは、可能だと思います。 ・ 社会あるいは理科の教科の内容とリンクがはかれたら利用しやすいと思います。 ・ 具体的な学年、単元での実施というように提案して下さると、対象学年で検討しやすいです。 ・ 5年生の社会科学習や1、2年の生活科の学習等で実施していければよいのではないかと思います。チャンスがあればやってみたいです。 ・ 教科書の内容に十分沿っているものや、そこから発展した内容で、子どもたちも教員も、満足できるものと考えてほしい。時間のかかるものや、学校の準備が多い内容は、お願いしたくないです。

内容	回答
	<ul style="list-style-type: none"> ・ たとえば漁師さんが学校に来て話をしてくれるくらいのもので有効と思います ・ 海に行き、本物(生物)を見る・さわる等五感をはたらかせて学習させることが大切だと思います。本物を知ることで、環境についても地に足のついた考え方が育つと思われれます。このような企画のプログラムが開発されることを希望します。 ・ 体験はとても大切であるが体験型を平日に実施することで、教育課程を、消化しきれない。ぜひ長期休業中に実施されたい。 ・ 学校で時間を生み出すには難しい場合が多いです。はまっ子や学童クラブ(放課後子どもたちが集まっているところ)キッズのイベントとして行くと、よいのではないかと思います。 ・ 授業をおねがいし、教師も共に学べる活動ができればよいと思う。 ・ 日本を理解するにあたり、海洋教育は切っても切れないものと考えます。子どもたちにそのことを教え導く教師が、その必要性を実感することも必要だと思います。各自治体や教育委員会を通じて、教師への研修会なども行くとよいのではないのでしょうか(おそらくされていると思いますが…)。実際に子どもたちが触れて体験し、味わう学習の機会を学校としてもつくっていきたいと思います。 ・ 海だからこそという価値が明確であれば、もっと浸透するのではないのでしょうか。熊本は水俣病というつらい体験があり、公害を通した海を通した環境教育にずっととりこんでおります。同時に差別と戦って来た歴史を学び、正しい人権感覚を育てることを目指しています。 ・ 食育としての取組もできると思う。(八丈島のとびうおなどはやっていたので)。 ・ 出前授業で頼みやすいものだと利用しやすいです。 ・ 実践例や紹介DVD等があると参考になります。 ・ 本校は病気で入院中の子どものための学校であるため、常に衛生面に気を使う必要があります。実際の生物に触れさせたり、病院食以外のものを食べさせたりできない環境にある。「おさかなゼミ」のような、PCを使った講座なら可能ではないかと思います。
<p>〇〇教育全般について(6件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な体験学習が実施できるように企業が学校を支援いただけるのは、本校の教育目標、豊かな心豊かな表現の推進力となります。ありがとうございます ・ 開校2年目の小学校です。今後学年が増えると教職員の数も増え、余裕を持っているいろいろな教育にも取り組めるようになって今から楽しみにしています。 ・ 「〇〇教育」という名のつくものが非常に多く、学校に活動を多くすすめられるが、全てをこなすことは不可能。学校のカリキュラムの側から取り組むべきことを整理したい。 ・ 有益な教育はいろいろありますが、だからといって、〇〇教育と銘うって学校現場におろされても、なかなか教育課程に組み入れることが難しいことが多く、苦慮しています。むしろ、食生活の要である家庭の啓発に社会全体で取り組んでいただきたいと思えます。 ・ 海洋教育に取り組むと、子ども達は得るものが多いということがよく分かりますが、実際には、なかなか時間設定がむずかしいです。「〇〇教育」と呼ばれるものがたくさんあり、それらを整理して、教育活動の中に組み込んでいくことが、本当にむずかしく感じています。 ・ 「〇〇教育」という名で、いったいどれだけの内容が学校現場へ上意下達されているのか。業界団体等の都合でこれ以上現場を混乱させないでほしい。
<p>本アンケートについて(10件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ あまり身近でないので、答えにくい。 ・ 「海辺」の他にも「水辺」という言葉が出てきたので、海洋教育に関する答えになり得たのか心配ですが、本校の近くに流れる小川も水辺ととらえて回答しました。 ・ “水辺の生物”についてはアメリカザリガニの観察等を行っていることから“触れる”ことはありますが、授業として校外学習は行っておりません。“食す”についてはアレルギー等への配慮も必要ですし、設問が“触れる、食す”となっていると回答に困りま

内容	回答
	<p>す。主旨を誤って読み取っていた場合はご容赦下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットも一緒に送ってもらいたかった。 ・よく質問の意図がわからないところと、あてはまるものがないところは、○をつけませんでした。例えば問9にはなぜ「ない」という選択肢がないのかな…、というような点です。できるだけお答えしたつもりですが、すみません。 ・アンケートの設問が限定的(回答も)で、分かりにくい。 ・期日が夏休み中だとよかった。期日？期限ですかね？ ・あまりに唐突で、何のための調査か理解できませんでした。 ・このアンケートは、どのように活用されますか？ ・実施する意志がないので、このアンケートを回答するにあたって不快感があった。
その他(4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ よろしくお願ひします ・ 特にありません。ご苦勞様です。 ・ 特にございませぬ。分かる範囲での回答で失礼致します。 ・ ご協力できたかはわかりませぬが、よろしくお願ひ致します

平成 28 年 9 月

小学校の海洋・水産教育と体験学習に関する調査 報告書

発行 一般社団法人 大日本水産会
魚食普及推進センター

連絡先 〒107-0052
東京都港区赤坂 1 丁目 9 番 13 号
三会堂ビル 8 階
電話(03)3585-6684 FAX(03)3582-2337
Mail. osakana@suisankai.or.jp
URL. <http://www.suisankai.or.jp>